第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ担ムコトヲ得

前項ニ依リ植付ケタル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムル

第四十八條　河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及强制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及ヒ其ノ附屬物ノ認定若ハ變更ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限內ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限內ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以內ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ノ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川ニ關スル命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ全部若ハ一部ヲ執行セシメ又ハ警察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以內ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシ

タル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭ヒアルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

後六箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過

第六十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規

程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

第六十五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條　災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

同施行規程

（明治二十九年六月勅令第二百三十六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條　府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ（明治三十二年六月勅令第二百八十六號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三條　沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條　河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ依リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條　河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フヘキ旨ヲ指定シタル河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額ニ依リ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條　河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入リ又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現存スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條　河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條　河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ宅地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨クサル限ニ於テ其ノ占有ヲ許可スヘシ

第十條　府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占有ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ナシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條　河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條　河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ハ此ノ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以內ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條　內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以內ノ罰金若ハ三十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以內ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條　河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及

第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得東京府ニ在テハ第六十條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

第七篇　開港港則

（明治三十一年七月勅令第百三十九號）

港

陛樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

開港港則

第一條　左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

第二條　橫濱ノ港界ハ十二天（マンダリン、プラフ）ヨリ燈船マテ夫ヨリ正北ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸マテ引キタル一線內ニ含マル

神戶ノ港界ハ生田川ノ西口ヨリ南方ニ向ヒ引キタル一線ト和田崎ヨリ北東ニ向ヒ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積內ニ含マル

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシ二海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內ニ含マル

夷港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西加茂村マテ引キタル一線トノ內ニ含マル

大阪ノ港界ハ武庫川口目標（ツリー、ポイント）ヨリ南微西ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口標（ツリー、ポイント）ヨリ六海哩大和川口ヨリ五海哩ノ所ニ於テ相接スル其ノ線內ニ含マル

長崎ノ港界ハ神崎ヨリ女神ニ引キタル一線内ニ含マル
函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海哩ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル

第二條　各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ揭クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得
右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ屆出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

第三條　各船舶ハ著港屆ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港屆ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第四條　各船舶ノ港長ノ端艇ハ港長ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ
ラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條　港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス

第六條　如何ナル船舶モ公ノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障碍スヘカラス
「ヤツト」「ブーム」スニヲ接キ出シタル船舶ニシテ其「ヤツト」「ブーム」スカ航海ノ自由ヲ障碍スルトキ

ハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條　港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日沒ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第八條　暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ揭ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條　常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日沒ノ間ニハB ノ信號日沒ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

第十條　休繫中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤツト」倉庫貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條　船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日沒ノ間ニハNM ノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日沒ノ間ニハG ノ庫號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條　帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病（虎烈剌、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類）アル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日

汊ノ間ニハ黄旗ヲ日汊ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ヲ前檣ノ頂上ニ掲クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

衛生官吏臨檢ノ爲其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲ニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黄旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換フルコトヲ許サス

第十三條　港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄ス可ラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條　船舶出港セントスルトキハ其旨港務局ニ届出テ且ツ出帆旗ヲ引揚クヘシ

第十五條　一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條　港務局ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條　燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條　本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條　本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ滿足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條　本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條　各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

第二十三條　本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、第六條、第十二條、第二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條　本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

（別紙第五條ノ旗章雛形略之）

開港港則施行細則

（明治三十一年九月遞信省令第十六號）

開港港則施行細則左ノ通相定メ開港港則實施ノ日ヨリ施行ス

第一條　港務局官吏船舶ニ臨檢シ該船舶ヲ健康ナリト認ムルトキハ第一號書式ノ交通證書ヲ船長ニ交付スヘシ

第二條　港長ノ示定シタル泊船所ヲ移轉セントスルトキハ船長ハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第三條　船舶ノ著港届ハ第二號書式ニ依リ港務局ニ差出スヘシ

第四條　開港港則第九條ニ於テ爆發物トスルハ「ダイナマイト」、煙火、導火管、「ゼリグナイト」、「ナイトログリセリン」、火藥、棉火藥、無煙火藥、雷管ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物料ト稱スルハ「ブルマ」油、生石油、石油、「ナフタ」、「ナフタリン」、「ランクーン」油、「ロツク」油、松精油ノ類其他華氏九十五度以上ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第五條　船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火箭、焰管、救命焰ヲ除クノ外爆發質ノ物料ハ總テ之ヲ常用

外ト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物料ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ常用外ト看做ス

第六條　信號用ノ外港界內ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發セントスルトキハ願書ヲ港務局ニ差出シ豫メ允許ヲ受クヘシ

第七條　港界內ニ於テ船舶ヲ休繫シ又ハ修繕セントスルトキハ豫メ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第八條　開港港則第十二條第六項ノ船舶及碇泊中獸類傳染病ノ發生シタル船舶ハ速ニ其旨ヲ港務局ニ届出ツヘシ

第九條　動物ノ死體灰燼塵芥等ヲ取棄ントスル船舶ハ港務局ニ於テ承認シタル塵船ヲ使用スヘシ

塵船ヲ使用セントスル船舶ハ船內見易キ處ニ「T」ノ信號若ハ籃ヲ掲ケテ目標トナスヘシ

第十條　繫船浮標ヲ使用セントスル船舶ハ船主若ハ船長ヨリ豫メ第三號書式ノ願書ニ成規ノ使用料ヲ添ヘ港務局ニ差出シ允許ヲ受クヘシ

繫船浮標使用料ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　繫船浮標使用ノ允許ヲ受ケタル船舶ハ港長ノ指定シタル繫船浮標ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

港長ハ必要ニ依リ使用スヘキ浮標ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條　船舶出港セントスルトキハ第四號書式ノ出港届ヲ港務局ニ差出スヘシ

外國通航船前項ノ手續ヲ終リタルトキハ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ手數料トシテ五圓ヲ納ムヘシ但條約ニ於テ該手數料ヲ定メタルトキハ其額ニ依ル

健全證書ハ第五號書式ニ依ル

第十三條　一定ノ日時ニ發著スル汽船ニシテ其著港及出港ニ付一回ノ屆出ヲ爲ス者ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第十四條　出港シタル船舶避難修繕其他事故ノ爲メ出港後十二時間內ニ歸港シタルトキハ其事由ヲ記載シタル屆書ヲ港務局ニ差出シ著港屆ニ代フルコトヲ得

第十五條　開港港則第二十條ニ規定スル擔保物ハ帝國ノ通貨及帝國政府ノ公債證書ニ限ル

第十六條　本則ノ規定ハ第二條第八條及第九條ヲ除クノ外軍艦ニハ之ヲ適用セス

第十七條　第一條ノ規定ハ沿海通航船ニハ之ヲ適用セス

第十八條　船籍證書ヲ受有スルニ及ハサル船舶及一定ノ港津間ニ往復スル積量百噸以下ノ沿海通航船ハ船主ヨリ豫メ港務局ニ屆出テ允許ヲ受クルニ於テハ第三條及第十二條第一項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　警報信號、正午標準時、港界內ノ航路、泊船所碇泊所ノ區域、船舶ノ運動及繫船ノ方法ハ各港ニ付キ港長之ヲ定ム

（書式ハ之ヲ略ス）

第五類　通信

第一篇　郵便

第一章　郵便

郵便法

（明治三十三年三月法律第五十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

郵便法

第一條　郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲナスコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ

郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　郵便專用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條　郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條　郵便物檢疫ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直チニ檢疫ヲ受ク

第十條　郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノナシタルモノト看做ス

第十一條　郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞僞ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其宛所ニ配達ス

第十三條　郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條　宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條　前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物ハ賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條　郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條　郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條　通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ

第一種　書狀　重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ　金三錢

第二種　郵便葉書　一通常葉書　金一錢五厘
二往復葉書　金三錢
三封緘葉書　金三錢

第三種　毎月一回以上刊行スル定期刊行物　重量二十匁
（一）一號一箇重量二十匁又ハ其ノ端數毎ニ　金五厘
（二）二號又ハ二箇以上一束重量二十匁又ハ其ノ端數毎ニ　金一錢

第四種　書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書畫、圖、商品ノ見本及雛形、博物學上ノ標本　重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ　金二錢

第五種　農產物種子　重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ　金一錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スル物件ニシテ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表面又ハ三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條　小包郵便物ノ料金竝郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條　書狀ハ小包郵便物ニ合裝スルコトヲ得ス若シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條　郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條　受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第二十五條　命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス

第二十六條　郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月內ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條　郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條　郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス

第三十一條　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚損毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條　成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限リ其ノ損害ヲ

賠償ス

一　書留郵便物ヲ亡失シタルトキ

二　小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

三　郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ

賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條　郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條　第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

一　差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二　不可抗力ニ因リタルトキ

三　其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因ルタルトキ

第三十六條　郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十七條　第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條　本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月

二　第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條　郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條　郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條　第三條ニ違反シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ收得シタル金錢物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第四十二條　第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ强要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條　郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條　第三十條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條　郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒

收ス

第四十七條　不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第四十八條　帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ僞造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ之ヲ沒收ス

第四十九條　帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條　郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ剝脫切取シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條　郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ二等ヲ加フ

第五十二條　郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披毀損隱匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ二等ヲ加フ

第五十三條　正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絶シ若ハ其ノ送達ヲ遲延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　郵便專用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ共スル物件ヲ破壞損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條　第四十七條ヲ除ク外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條　郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條　本法ハ明治三十三年十月二日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第十二章及第二百四十六條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

第五十八條　本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例小包郵便法ヲ適用ス

郵便規則

（明治三十三年九月遞信省令第四十二號）

郵便規則左ノ通相定ム

郵便規則

第一章　郵便物ノ種別

第一節　總則

第一條　左記ノ物件ヲ郵便禁制品トス

一　公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書、圖、畫其ノ他ノ物件

二　爆發性、發火性又ハ危險性ノ物件其ノ他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件

第二條　通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得ス

第三條　通常郵便物ノ容積ハ其ノ長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ其ノ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁ヲ超過スヘカラス

小包郵便物ノ容積ハ其ノ長幅及厚各二尺ヲ限トシ其ノ重量ハ一貫五百匁ヲ超過スヘカラス

第四條　郵便物ノ容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物ハ特ニ規定シタル場合ノ外之ヲ差出人ニ還付ス若其ノ郵便料未納又ハ不足ナルトキハ其ノ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第五條　無料郵便物ハ郵便法第二十八條ニ掲クル區別ニ從ヒ其ノ關係事務ノ名稱ヲ表面ニ記載スヘシ

無料郵便物ノ差出人又ハ受取人カ官署若ハ官吏ナルトキハ其ノ官署名若ハ官職氏名私人ナルトキハ其ノ宿所氏名ヲ外部ニ明記スヘシ

前三項ノ規定ニ反スル郵便物ハ有料郵便物トシテ取扱フ

第六條　無料ノ性質ヲ有セサルモノヲ無料郵便物トシテ差出シタルトキハ差出人ニ還付シ未納額ノ二

無料郵便物ニ無料ノ性質ヲ有セサル音信文ヲ記載シ又ハ有料郵便物ヲ添附シタルモノ亦同シ

第七條　郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局所ノ過失ニ依リタルトキハ其ノ不納額ハ之ヲ徵收セス

第八條　郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一　郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便料過徵額及誤納額

二　特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局所ノ過失ニ依リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三　郵便局所ノ過失ニ依リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遲レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四　亡失又ハ失效ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ書留郵便物、小包郵便物、價格表記郵便物、現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金

第九條　前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日トス

第十條　第三種乃至第五種郵便物及小包郵便物ハ其ノ外部ニ左記ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

一　差出人及受取人ノ宿所氏名

二　差出人及受取人ノ身分、職業、商標等

三 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語
四 贈呈、納本等ノ慣用語
五 定期刊行物ニ前金切レ又ハ何月何日限リ前金滿了等ノ慣用語
六 送達上必要アル注意ヲ示ス語辭

前項郵便物ニハ其內部ニ前項各號ノ外尚左ノ事項ニ限リ之ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附スルコトヲ得

一 名稱、番號、數量、金額、寸尺、重量
二 定期刊行物、書籍、印刷物、書、畫、圖、業務用書類ニ正誤、注意、點、線、批評ノ類
三 圖、畫及寫眞、說明又ハ著色
四 商品見本及雛形、農產物種子及博物學上ノ標本ニ生產地及種類ヲ確知スル爲メ必要ノ事項
五 農產物種子ニ播種ノ時期及說明

前二項以外ノ事項ヲ記入シ又ハ別ニ記載シテ添附シタル郵便物ハ第三種乃至第五種郵便物ノ場合ニ在リテハ第一種郵便物トシテ取扱ヒ小包郵便物ノ場合ニ在リテハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十一條 郵便ニ關スル料金納付ノ爲メニ用ヰタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ郵便局所ニ於テ之ヲ消印ス

第十二條 郵便物ハ其ノ品質、形狀ニ應シ危險、損害若ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 特種ノ包裝ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二節 通常郵便物

第十四條 書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ

第十五條 郵便葉書ハ其ノ表面ニ左記ノ事項ニ限リ之ヲ記載スルコトヲ得

一 差出人及受取人ノ宿所氏名、自分、職業及商標等
二 日附及要用、至急、貴酬等ノ慣用語

郵便葉書ハ原形ノ儘使用シ契約書、委任狀若ハ受領證等ト爲サムカ爲メ收入印紙ヲ裏面ニ貼附スル場合ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖添附スルヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタル郵便葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十六條 往復葉書ニ依ル返信ノ際發信ニ使用シタル部分ヲ除去セサルトキハ郵便局所ニ於テ之ヲ除去ス

第十七條 郵便葉書ノ料額印面ヲ汚斑シタルモノハ之ト同額ノ郵便切手ヲ貼附スルニ依リ郵便葉書ノ效力ヲ有ス

第十八條 政府ノ發行スル通常葉書ト同一ノ寸法及紙質ニシテ之ト同一ノ位置ニ「郵便葉書」ノ文字ヲ印刷シ且之ト同額ノ郵便切手ヲ貼附シタル私製葉書ハ通常葉書ト看做ス

私製葉書ニシテ前項規定ニ違反シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ノ認可ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 定期刊行物ハ其刊行物初頁上部ニ其ノ名稱、發行期日、同數、逐號番號、發行年月

日及何年何月何日第三種郵便物認可ノ文字、次頁以下ノ上部ニ其ノ名稱又ハ略記號、發行年月日及第三種郵便物認可ノ文字ヲ印刷スルコトヲ得

ノミニ印刷スルコトヲ得

第五類 通信

第二十一條　定期刊行物ハ本紙ノ重量ニ超過セス本紙ト同性質ノ記事、廣告又ハ書、畫、圖ヲ印刷シ之ニ本紙ノ名稱、番號竝ニ發行ノ年月日及附錄ノ文字ヲ記入シ且册子トナシタル刊行物ハ最初及最終ノ頁面ニ限リ附錄トシテ之ヲ其ノ本紙ニ添附スルコトヲ得

第二十二條　緊急時事ヲ報道スル爲メ臨時ニ刊行スル定期刊行物ノ號外ハ定期刊行物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

定期刊行物ノ號外ハ之ニ本紙ノ名稱、發行ノ年月日、何年何月何日第三種郵便物認可及號外ノ文字ヲ記入スヘシ

第二十三條　定期刊行物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ本紙ノ重量ヲ超過セサルモノニ限リ之ヲ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十四條　印刷物ニハ其ノ發行者ニ於テ其ノ記事ニ關スル物品ニシテ其ノ印刷物ノ重量ヲ超過セサルモノニ限リ綴込又ハ貼附スルコトヲ得

第二十五條　業務用書類トハ全部若ハ一部ヲ筆書シタル各種ノ文書ニシテ特定ノ人ニ對スル通信文ノ性質ヲ有セサルモノヲ云フ

第二十六條　寫眞、畫、圖及博物學上ノ標本ハ掛軸、扁額トナス等裝飾又ハ作爲ヲ加ヘサルモノヲ云フ

第二十七條　商品見本雛形ハ見本又ハ雛形トシテ其ノ性質又ハ形狀ヲ示スニ足ルヘキ箇數又ハ分量ヲ限リ其營業者ト往復スルモノヲ云フ

前項ノ郵便物ニハ其ノ外部ニ差出人又ハ受取人ノ營業名及其ノ表面ニ商品見本又ハ雛形ノ文字ヲ記載スヘシ

第三節　小包郵便物

第二十八條　小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ（明治三十五年十二月遞信省令第五十八號ヲ以テ本料金ヲ改ム）

一內地小包郵便料

同一郵便區內　金五錢

同一郵便區外　二百匁マテ　四百匁マテ　十錢　十五錢

一內地聖灣間小包郵便料

三百匁マテ　四百匁マテ　六百匁マテ　九百匁マテ　一貫匁マテ　一貫二百匁マテ　一貫五百匁マテ

三十錢　三十五錢　四十錢　五十錢　六十錢　七十錢

第二十九條　小包郵便物ハ引受ノ際差出人ニ該郵便物ノ受領書ヲ交付シ該郵便物ノ配達又ハ還付ノ際受取人又ハ差出人ヨリ該郵便物ノ受領證ヲ差出サシム

第三十條　小包郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送スルトキハ更ニ郵便料ヲ徵收ス（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三十一條　小包郵便物ノ郵便料ハ前納ニ限ル但シ該郵便物ヲ還付シ又ハ同一郵便區外ヘ轉送

スル場合ハ後納トス此場合ニ於テ還付料及差出人ノ請求ニ依ル轉送料ハ差出人ヨリ徴收シ受取人ノ請求ニ依ル轉送料ハ受取人ヨリ徴收ス

第三十二條　小包郵便物ノ差出入ハ其ノ郵便物差出ノ際名宛地ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該郵便物ノ轉送又ハ棄却ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　小包郵便物ノ受取人ハ該郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第二章　郵便物ノ特殊取扱

第一節　總則

第三十四條　特殊ノ取扱ヲ要スル郵便ニ關スル料金ハ特別ノ規定アル場合ノ外凡テ前納トス

第三十五條　郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ（明治三十四年十二月遞信省令第五十六號ヲ以テ本條第五號ノ料金額ヲ改ム）

一　別配達料　一箇ニ付　（市内ハ金十錢　市外ハ金三十錢　他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地所轄ノ郵便局トノ里程ニ應シ別ニ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加徴ス　解船料ハ市内市外ニ拘ラス別ニ其ノ實發額ヲ受取人ヨリ徴收ス　受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ追徴ス）

二　留置通知料　一箇ニ付　金三錢

三　配達證明料　一箇ニ付　金三錢

四　書留料　一箇ニ付　金七錢

五　價格表記料　（表記金額十圓迄ハ金十五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金五錢

六　代金引換料　一口ニ付　金五錢　外ニ取立金送達料トシテ其ノ引換金額十圓迄ハ金五錢十圓以上百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金四錢百圓以上三百圓迄ハ其ノ超過シタル額ニ對シ十圓迄毎ニ金三錢

七　現金取立料　一口ニ付　金五錢　外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル料額

第三十六條　左記ノ郵便物ハ各其ノ下ニ記載セル文字ヲ表面看易キ場所ニ記入スヘシ

一　別配達郵便物　（別配達又ハ何局別配達）

二　留置郵便物　（留置若ハ何局留置又ハ留置通知）

三　配達證明郵便物　（配達證明）

四　書留郵便物　（書留）

五　價格表記郵便物　（價格表記金何程）

六　代金引換委託郵便物　（代金引換金何程）

第三節　別配達

第三十七條　書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得

第三十八條　別配達ノ郵便物ハ通常ノ配達時刻ニ拘ラス直ニ特使ヲ以テ之ヲ配達ス

別配達ノ郵便物ニシテ配達ノ際受取人不在其他ノ事故ニ依リ交付スルコト能ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三節　留置

第三十九條　留置郵便物ハ差出人指定ノ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第四十條　留置郵便物ノ差出人ハ留置郵便局所ヨリ其ノ受取人ニ該郵便物到著ノ通知ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條　郵便物ノ留置期間ハ三十日トス

交通不便ニシテ其ノ受取人前項ノ期間ニ出頭シ能ハスト認ムル地ニ宛テタル郵便物ニ限リ特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四節　配達證明

第四十二條　書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ハ配達證明ト爲スコトヲ得

第四十三條　配達郵便局所ニ於テ配達證明郵便物ノ配達ヲ了シタルトキハ其ノ配達ノ證明書ヲ差出人ニ送付ス

第五節　書留

第四十四條　通常郵便物ハ之ヲ書留ト爲スコトヲ得但シ價格表記ト爲シタルモノハ書留ト爲スコトヲ得ス

第四十五條　書留郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第六節　價格表記

第四十六條　有價ノ物件ヲ封入シタル郵便物ハ之ヲ價格表記郵便物ト爲スコトヲ得但シ書留ト爲シタル郵便物ハ價格表記ト爲スコトヲ得ス

價格表記金額ノ制限ハ金千圓トス

第四十七條　價格表記郵便物ノ受授ニ關シテハ第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第七節　代金引換

第四十八條　價格表記ノ通常郵便物及小包郵便ハ代金引換ト爲シ其ノ郵便物ト代金ト引換ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

代金引換郵便ニ依ル金額ノ制限ハ金三百圓トス

第四十九條　代金引換郵便物ハ到著郵便局所ニ留置キ其ノ旨ヲ受取人ニ通知シ受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項留置ニ關シテハ第四十一條第八十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十條　取立郵便局所ニ於テ代金引換郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該郵便物ノ受領證竝ニ取立金送遞料ヲ差出シ之レト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第五十一條　代金引換郵便物ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ差出人ハ其ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ郵便局所ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトアルヘシ

第五十二條　代金引換郵便物ノ差出人ハ第七十九條郵便物取戻ノ請求ニ關スル料金ト同額ノ料金ヲ前納シテ代金引換ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第八節　現金取立

第五十三條　代金受領證、株式配當券、公債又ハ社債ノ利券、保險掛金受領證ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ現金取立トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便局所ニ委託スルコトヲ得

現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金三百圓トス

第五十四條　現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但シ同一ノ債權者ニ屬

シ同一ノ債務者ヨリ同時ニ取立テ得ヘキモノハ此限ニ在ラス

第五十五條　現金取立ノ委託ヲ爲サムト欲スル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便局所ニ差出シ郵便局所ヨリ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第五十六條　一定ノ期日ニ取立ツヘキ證券ハ債務者所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日遲クモ五日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第五十七條　現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其金額ヲ取立ツルコトヲ得サル場合ニ於テ直ニ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨ヲ記入シテ差出スヘシ

第五十八條　現金取立郵便物ノ到著局所ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ讓告シ該期日ニ債務者之居所ニ就テ證券引換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ム若債務者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一取立區域內ナルトキハ其ノ移轉先ニ就テ同樣ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條　委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂ノ拒絕ニ依ルニ在ラスシテ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便局所ハ七日以內ノ期間ニ指定ノ郵便局所ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ殘置ス但シ第五十七條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條　委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ若ハ其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ又ハ債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絕シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間內ニ支拂ハサルトキハ郵便局所ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條　取立郵便局所ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券ノ受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第六十二條　委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條　現金取立ノ取消ニ關シテハ第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第九節　約束郵便

第六十四條　普通郵便ニ依ル定期刊行物及印刷物ニ限リ郵便官署ト特約シテ約束郵便トナスヲ得

約束郵便トシテ差出ス郵便物ハ他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ノ印章ヲ押捺スヘシ

第六十五條　約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間滿了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間內ニ差出シタル郵便物ノ料金ヲ納付スヘシ

第十節　郵便私書函

第六十六條　郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シアル郵便私書函ニ依リ何時ニテモ普通郵便ニ依ル料金完納通常郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條　郵便私書函ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ヲ使用スルコトヲ得ス

第六十八條　郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ受ケ其ノ定ムル所ニ依リ一年分金五十圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘシ

第三章　郵便物ノ差出

第六十九條　普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘシ但シ容積大ナルカ爲メ又ハ箇數多キカ爲メ郵便函ニ差入ルコト能ハサルモノハ郵便局所ニ差出スヘシ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局所ニ差出スヘシ但シ通知ヲ要セサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條　郵便局所内ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別配達郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條　郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス但シ價格表記郵便物ニ使用スル遞信省發行ノ封皮ニシテ其表面ニ印刷シアル封皮ノ量目ハ之ヲ算入セス

（明治三十四年十二月遞信省令第五十六號ヲ以テ本但書ヲ追加ス）

第七十二條ノ一　郵便料金ノ徴收ニ關シ同一ノ行政市區内ニ數個ノ郵便區アルトキハ其數個ノ郵便區ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス（明治三十六年三月遞信省令第十六號ヲ以テ本條ヲ新設ス）

前項ノ場合ニ於テ其郵便區ノ一部行政市區外ニ渉ルモノアルトキハ其行政市區外ニ渉ル部分ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

第七十二條ノ二　別配達郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル（明治三十五年十二月遞信省令第五十八號ヲ以テ條中改正、尚三十六年三月同省令第十六號ヲ以テ本條ノ元第七十二條ナリシヲ第七十二條ノ二ト爲ス）

第四章　郵便物ノ配達

第七十三條　深山孤島其ノ他僻陬ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ居住スル者ニ宛タル郵便物ニシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

第七十四條　二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ配遞ス

第七十五條　郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ在ラサル者ニ配達シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ料金ヲ納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便局所ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手當ヲ爲シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條　郵便局所カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ郵便物ノ封皮及葉書ノ交付ヲ求メ又ハ其ノ郵便物ノ受授ニ關スル狀況ヲ探問スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第七十七條　正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲サス又ハ第七十六條ノ要求ニ應セサル者ハ科料ニ處ス

第五章　郵便物ノ轉送及還付

第七十八條　通常郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金ヲ徴收セス

第七十九條　郵便物ノ差出人カ未タ配達ヲ了セサル郵便物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絶スルコトアルヘシ

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ郵便物差立前ナルトキハ金五錢差立後ニシテ郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四十錢名宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七十錢ヲ前納スヘシ

第八十條　通常郵便物ノ受取人他ノ郵便區内ニ移轉シ其ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先ヘ轉送ス

小包郵便物ハ第三十二條又ハ第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シタルトキニ限リ之ヲ轉送ス

第八十一條　通常郵便物ノ受取人既ニ其ノ宿所ヲ移轉セルトキハ其ノ配達先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ該郵便物ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得

其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト無ク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得若其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

通常郵便物受取人ノ移轉先不明ニシテ該郵便物ノ還付ヲ爲ス場合亦前二項ニ準ス

第八十二條　郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便料不納ナルニ依リ受取人之カ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配達シ能ハサル郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

小包郵便物ニ關シテハ前項ノ外第三十二條ニ依リ差出人ヨリ孫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ヲ爲ササル場合ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第六章　損害賠償及報酬

第八十三條　郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償ハ損害ヲ生セシメタル郵便遞送人及郵便集配人ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求メタル郵便集配人又ハ郵便吏員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

第八十四條　郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害アリト申立タルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナシト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ再ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ檢査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出ツル場合ノ外損害調書ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第八十五條　前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依ル還付シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第八十六條　郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別、品名、箇數、實價、請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ若前二條ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添附スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請

求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

郵便物包裝規定（明治三十三年九月遞信省告示第三百四十六號）

郵便物ハ左ノ規定ニ從ヒ包裝スヘシ

一　書狀及封緘葉書ハ容易ニ剝離開放セサル樣適宜ニ之ヲ封緘スヘシ

二　定期刊行物、書籍印刷物、業務用書類、寫眞、畫盡、圖ハ開封ト爲シ又ハ帶紙若ハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雜形、博物學上ノ標本、農產物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ嚢ニ納ムル等容易ニ內品ヲ點檢シ得ヘキ樣包裝スヘシ但穀種ハ郵便局所ノ承認ヲ經テ之ヲ密閉スルコトヲ得

三　小包郵便物ハ強質ノ紙又ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ若ハ箱又ハ籠等ニ入レ適當ニ包裝シ外包ヲ毀損スルニ非サレハ內品ニ毀損ヲ被ラシムルコトナキ樣充分ノ包裝ヲ爲スヘシ

四　鋒刃其ノ他之ニ類スル物品ハ適當ノ鞘ニ藏メ又ハ其ノ危險ノ部分ヲ裹ヒテ之ヲ箱ニ藏メ外翌ヲ毀損セサル樣包裝スヘシ

五　流動體若ハ溶解シ易キ物又ハ臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ罐又ハ壜ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密閉シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ但シ容易ニ溶解セサルモ尙溶解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件等ハ防水布又ハ漉紙ノ類ヲ以ヲ適宜ニ包裝スルコトヲ得

郵便物差出方注意（明治三十三年十二月遞信省告示第五百三十九號）

郵便物差出方ニ付特ニ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一　兼賀新年其他之ニ類スル賀詞ヲ印刷シアル定期刊行物又ハ其他ノ印刷物ニ發行者ニアラサル者ニ於テ其姓名家號等ヲ印刷又ハ記入シ之ヲ郵便ニ差出シタルトキハ第一種郵便物トシテ取扱フヘシ

一　第三種郵便物ノ號外トシテ發行シタル印刷物ニシテ緊急時事ヲ報道スルモノニアラサルモノ若クハ號外臨時增刊等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス本紙ト其記載事項ノ性質ヲ異ニスル印刷物ハ第四種郵便物トシテ取扱フヘシ

一　已ニ認可ヲ受ケ現ニ其效力ヲ存續スル第三種郵便物ニシテ其紙面ノ體裁又ニ記載事項ヲ變更シテ再ヒ刊行シタルモノハ前二項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

郵便私書函貸與規程（明治三十三年九月遞信省告示第三百三十八號）

郵便私書函貸與規程左ノ通相定ム

郵便私書函貸與規程

第一條　郵便私書函ヲ使用セントスルモノハ本規程ニ依リ郵便局ニ出願シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　郵便局ニ於テ郵便私書函ノ使用ヲ許可シタルトキハ之レカ開閉ニ供スル鍵ヲ貸與スヘシ

第三條　郵便私書函使用料ハ四月一日ヨリ九月三十日迄及十月一日ヨリ翌三月三十一日迄ノ二期ニ分チ之ヲ前納スヘシ但期間ノ中途ニ於テ之カ使用ヲ始ムルモノハ其ノ期間ニ限リ月割額ヲ以テ料金ヲ徵收ス

第四條　前條一期間ノ郵便私書函使用料左ノ如シ

東京、大阪、京都、函館、新潟、仙臺、廣島、金澤、熊本、名古屋及在韓國釜山、元山、仁川、木浦ノ各局）ハ　金三圓

横濱、神戸、長崎及在清國上海ノ各局）ハ　大形　金十五圓　小形　金八圓

其他ノ各局ハ　金一圓

第五條　郵便私書函ノ使用人次期ノ使用料ヲ前納セサルトキハ其使用ヲ停止スヘシ

第六條　郵便私書函ノ使用ヲ廢止シ又ハ前條ニ依リ之カ使用ヲ停止セラレタルモノハ直ニ其鍵ヲ返納スヘシ若シ之ヲ返納セサルトキハ其延滯日數ニ應シ使用料ノ日割金額ヲ徵收ス

第七條　郵便私書函ノ使用人自己ノ過失ニ因リ郵便私書函ヲ毀損シ又ハ鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ相當費用ヲ徵收スルコトアルヘシ

附則

第八條　本規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

第三種郵便物認可規則

（明治三十三年九月遞信省令第七十三號）

第三種郵便物認可規則左ノ通定ム

第一條　第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスルモノハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ一等郵便電信局ヘ願出ツヘシ

第二條　第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　每月一回以上逐號定期ニ發行スルコト

二　記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカラサルコト

三　書籍ノ性質ヲ有セサルコト

四　政事、時事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ發行ノ目的ト爲シ且ツ汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條　本規則ニ依ル認可ヲ受ケントスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

一　題號

二　記載事項ノ種類

三　發行ノ定日

四　發行所

五　發行人ノ住所氏名

第四條　前條ノ出願人ハ手數料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ郵便切手ヲ用ヰ認可願書ニ貼附スヘシ若認可ヲ與ヘサルトキハ之ヲ還付ス

第五條　本規則ニ依ル認可ノ效力ハ最初認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其效力ヲ失フ

第六條　第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行每ニ先ツ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ見本一部ヲ差出スヘシ

第七條　第三條各號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行禁止ノトキハ其ノ發行人ヨ

リ七日以内ニ其ノ認可ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條　本規則ニ依リ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ第二條各號ノ條件ヲ缺キ若ハ第六條ノ兒本ノ差出又ハ届出ヲ怠リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

附　則

第九條　本規則ハ郵便法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年(二月)遞信省令第四號第三種郵便物認可規則及本規則ニ牴觸スル規定ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條　明治二十五年(二月)遞信省令第四號第三種郵便物認可規則ニ依リ認可ヲ受ケタルモノハ尚其ノ效力ヲ有ス

代金引換郵便物及現金取立郵便ノ引受竝同取立金

拂渡取扱開始

（明治三十三年九月遞信省告示第三百五十一號）

來十月一日ヨリ全國郵便電信局及郵便局ニ於テ代金引換郵便物及現金取立郵便物ノ引受竝同取立金ノ拂渡ヲ取扱フ但現金ノ取立ハ當分ノ內郵便爲替金居宅拂渡ヲ取扱フ郵便電信局ノ郵便區市內ニ於テ取竝ヘキモノニ限ル

清韓小包郵便規則

（明治三十三年九月遞信省令第五十六號）

清韓小包郵便規則左ノ通相定ム

清韓小包郵便規則

第一條　日本、清、韓三國相互間竝ニ清、韓各國內ニ發著スル小包郵便物ニハ本規則竝ニ明治三十三年(九月)遞信省令第四十三號郵便規則中本規則ニ牴觸セサル規定ヲ適用ス

第二條　郵便規則ニ揭クル郵便禁制品ノ外關稅定率法其ノ他ノ法令竝ニ條約ニ依リテ輸出輸入ヲ禁シタル物品ヲ清韓小包郵便禁制品トス

第三條　日本、清、韓三國相互間ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ（明治三十五年十二月遞信省令第五十九號ヲ以テ本條料金ヲ改ム）

二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ	九百匁マテ
三十錢	三十五錢	四十錢	五十錢

一貫二百匁マテ	一貫五百匁マテ	
六十錢	七十錢	

清、韓各國國內ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ日本內地小包郵便物ノ料金ニ同シ

第四條　小包郵便物ノ差出人ハ其ノ保有品ノ品名數量及價格ヲ送票中ニ記載スヘシ但シ日本、清、韓三國相互間若ハ清國內ニ發著スル小包郵便物ノ場合ニ於テハ其ノ保有品ノ正味重量ヲモ送票中ニ記載スヘシ（明治三十六年六月遞信省令第二十九號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第五條　清國及韓國ニ於ケル小包郵便物ノ配達及別配達ハ所在日本郵便局所ニ於テ郵便物ノ配達ヲ施行スル地ニ宛タルモノニ限リ之ヲ施行ス其ノ以外ノ地ニ宛タルモノハ總テ之ヲ到著郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

前項小包郵便物留置ノ期間ハ三十日トス

第六條　清國若ハ韓國發日本ヘ到著ノ小包郵便物カ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以內ニ稅額ニ相

當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シテ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ其ノ郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ直ニ稅關ニ申立且其事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキ若ハ大藏大臣ニ訴願シタル場合ニ於テ其訴願ノ裁決ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第七條　前條ノ小包郵便物ノ保有品カ關稅定率法、稅關法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ントスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ

前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關ヨリ關稅免除許否ノ通知ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第八條　第六條ノ郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第七條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス

第九條　日本若ハ清國發韓國ヘ到著ノ小包郵便物カ韓國稅關ニ於テ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ其ノ郵便物ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以內ニ通知書ニ稅金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十條　輸入稅ノ納付ヲ經テ韓國ニ輸入シタル小包郵便物ハ普通商品ニ關シ日韓條約ニ規定スル期間ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戾ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十一條　韓國ヨリ日本若ハ清國ヘ宛小包郵便物ヲ差出ストキハ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物保有品ノ價格ノ百分ノ五ニ當ル金額ヲ輸出稅トシテ韓國稅關ニ代リ徵收ス

前項ノ輸出稅ハ其ノ金額カ金五十錢ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セス

第十二條　輸出稅ノ納付ヲ經テ韓國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサル爲韓國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ韓國稅關ヨリ既納稅金ノ拂戾ヲ受ケテ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス但シ此ノ場合ニ於ケル郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十三條　韓國政府ノ特許ヲ要スル物品ヲ小包郵便物トシテ韓國ヨリ日本若ハ清國ヘ差出ストキハ其ノ特許證ノ謄本ヲ添附スヘシ若シ之カ添附ナキモノヲ郵便局所ニ於テ發見スルトキハ其ノ韓國ヨリ輸出前ニ係ルモノハ之ヲ差出人ニ還付シ又輸出後ニ係ルモノハ之ヲ韓國稅關ニ交付シ其ノ事由ヲ差出人ニ通知ス

前項ノ郵便物カ韓國稅關ヨリ郵便局所ニ返付セラレタル場合ニ於テハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十三條ノ二　日本若ハ韓國發清國ヘ到著ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ發シ清國內ヘ到著ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以內ニ通知書ニ稅金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ受取人ヨリ直接ニ稅金ヲ稅關ニ納付シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ郵便局所ニ差出スモ妨ケナシトス（明治三十六年六月遞信省令第二十九號ヲ以テ本條ヲ新置ス）

受取人前項ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第二項ノ輸入稅ハ其ノ金額カ清貨半兩ニ滿タサルトキハ之カ徵收ヲ免除セラルルモノトス

第十三條ノ三　輸入稅ノ納付ヲ經テ清國ヘ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ關シ日清條約ニ規定スル期間內ニ再輸出スル場合ニ於テ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ又前條第一項但書ニ屬スルモノニ付テハ直接ニ清國稅關ニ差出スヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス（同上）

第十三條ノ四　清國ヨリ日本若ハ韓國ヘ發送ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ清國內ヘ發送ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸出稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ差出人ニ送付ス差出人ハ通知書ノ日附ヨリ十日以內ニ通知書ニ稅金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ差出人ハ此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ還付ス（同上）

差出人ハ豫メ其ノ差出サムトスル小包郵便物ヲ稅關ニ差出シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ添附シテ郵便局所ニ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ手續ヲ要セス

第一項ノ輸出稅ハ其ノ金額カ清貨半兩ニ滿タサルトキハ之カ徵收ヲ免除セラルルモノトス

第十三條ノ五　輸出稅ノ納付ヲ經テ清國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ清國稅關ヨリ既納稅金ノ拂戻ヲ受ケ之ヲ其ノ差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ清國稅關ニ屬スルモノニ付テハ差出人ヨリ直接ニ清國稅關ニ申出ツヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス（同上）

第十四條　日本、清、韓三國相互間ニ於テ小包郵便物ヲ還付又ハ轉送スルトキハ更ニ第三條ノ

郵便料ヲ徵收ス

小包郵便物ノ還付又ハ轉送ノ爲關稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ其ノ輸出稅ハ差出人又輸入稅ハ受取人ヨリ之ヲ徵收ス

第十五條　本規則ヲ適用スヘキ小包郵便物ニ關スル代金引換ノ取消、名宛變更又ハ取戻ノ請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

第十六條　清、韓兩國ノ郵便局所ニ差出シタル小包郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差出郵便局所ニ請求スヘシ但シ郵便受取所ニ差出シタルモノニ付テハ該受取所ヲ管轄スル局所ニ請求スヘシ

附則

第十七條　本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年（三月）遞信省告示第九十七號ヲ以之ヲ廢止ス

（參照）明治三十三年（三月）遞信省告示第九十七號

紅蔘ハ帝國及韓國間ノ條約ニ據リ韓國ヨリ輸出スルニハ韓國政府ノ特許ヲ得ルヲ要スルヲ以テ韓國ニ於テ韓國臣民ニアラサルモノヨリ之ヲ小包郵便物トシテ韓國外ニ差出ストキハ其ノ特許證ノ謄書ヲ添付スヘシ若シ其ノ謄書ノ添付ナキモノヲ郵便局ニ於テ發見スルトキハ之ヲ其ノ差出人ニ還付スヘシ

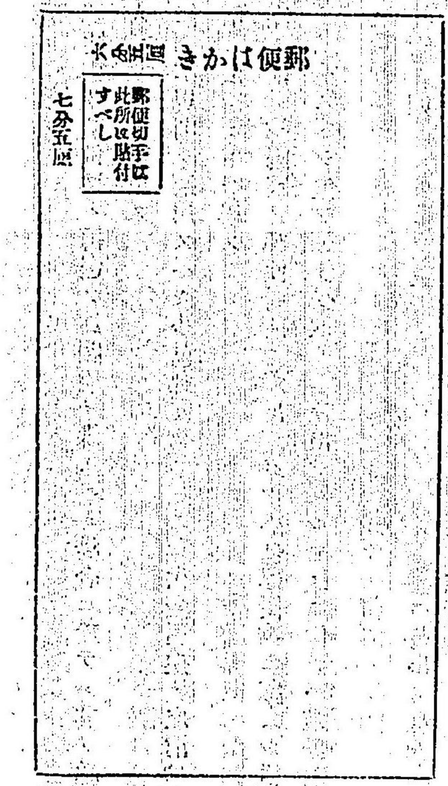
宇品山海關間往復ノ通信船內設置ノ郵便取扱所ニ於テ取扱フ小包郵便物料金及其取扱規則準據方ノ件

宇品山海關間往復ノ通信船内ニ設置セル郵便取扱所ニ於テ取扱フ小包郵便物ニハ明治三十三年（九月）遞信省令第五十六號清韓小包郵便規則ヲ適用シ淀泊中同取扱所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ハ其淀泊地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便海中引受クル小包郵便物ノ料金ハ其第一次ノ著港地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ト同一トス

私製葉書ノ製式（明治三十四年二月遞信省令第五號）

本年（九月）遞信省令第四十二號郵便規則第十八條私製葉書ノ製式ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　表面ニハ脫色セサル印肉ヲ以テ左式ノ如ク鮮明ニ印刷スヘシ



二　表面ニハ前項ノ外圖畫及文字ヲ印刷スヘカラス
但シ政府發行ノ通常葉書ト同一ノ注意文ヲ左右ニ印刷シ若ハ輪廓ヲ設クルハ妨ナシ

三　用紙ノ品質ハ堪力原料共ニ精良ニシテ政府發行ノ通常葉書ト同質以上ノ製品ト認ムルモノニ限リ之ヲ同一紙質ト看做ス

四　用紙ノ量目ハ切手ヲ貼付シタルモノニシテ一枚五分以上六分以下ヲ以テ政府發行ノ通常葉書ト同一量目ト看做ス

五　用紙ノ寸法ハ縱四寸五分七厘以上四寸六分二厘以内横二寸九分二厘以上二寸九分七厘以内ヲ以テ政府發行ノ通常葉書ト同一寸法ト看做ス

私製葉書ノ紙質ニ關スル件

（明治三十三年十月遞信省告示第三百九十七號）

明治三十三年（九月）遞信省令第四十二號郵便規則第十八條中通常葉書ノ紙質ニハ原料紙、色、堪力、量目、製法ノ五項ヲ包含ス

第二章　郵便爲替

郵便爲替法（明治三十三年三月法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便爲替法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替法

第一條　郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス

第二條　通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第三條　郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第四條　郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第五條　郵便官署ハ受取人ノ眞僞ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

第七條　郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第八條　郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第九條　郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十條　郵便爲替證書ノ有效期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トス

前項ノ期間ハ交通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有效期間ニ算入セス

第十二條　郵便爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無效トス

第十三條　郵便爲替證書ノ有效期間滿了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十四條　成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條　郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十六條　郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附　則

第十七條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス

第十八條　本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有效期間滿了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有效期間滿了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

郵便爲替規則（明治三十三年九月遞信省令第四十五號）

郵便爲替規則左ノ通相定ム

郵便爲替規則

第一章　總則

第一條　郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ

第二條　郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

通常爲替		金五十圓
電信爲替		金五十圓
小爲替		金五圓

通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第三條　郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

通常爲替	金額十圓以內	六錢
	同二十圓以內	十錢
	同三十圓以內	十五錢
	同四十圓以內	二十錢
	同五十圓以內	二十五錢
電信爲替	金額十圓以內	二十錢
	同二十圓以內	三十錢
	同三十圓以內	四十錢
	同四十圓以內	五十錢
	同五十圓以內	六十錢

小爲替

第四條　郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル

第五條　郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシテ受取人ノ指定ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求書證書等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代人ハ請求書證書等ニ代人タル肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第七條　法人又ハ法人ニアテサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第八條　印章ヲ所有セサル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ調印スルコト能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ記名調印セシムヘシ

第九條　郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ノ提出又ハ呈示シ能ハサルトキ又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ爲メ之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條　千島國琉球國小笠原島伊豆諸島及臺灣ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有效期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島內ニ取組ミタルモノハ此ノ限ニ在ラス

千島國ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有效期間ニ算入セス

第十一條　郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタルトキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金ヲ還付ス

一　電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達スヘキ期限ニ後レシメ因テ該爲替金ノ拂戻トナリタルトキ

二　郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金ノ納付ヲ要シタル手續ヲ脫漏シタルトキ

前項ノ請求ハ郵便爲替證書有效期間滿了後三箇月以內ニ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

第二章　通常爲替

第一節　振出

第十二條　通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標商號又ハ其他ノ符號ヲ附記スルコトヲ得

第十三條　振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第十四條　通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十五條　通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替證書一枚每ニ金五錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之レカ通知ヲ請求スルコトヲ得前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモノトス

第十六條　通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第十七條　通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條　振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節　拂渡

第十九條　通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條　拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略スルニトアルヘシ

一　差出人ノ宿所氏名
二　受取人ノ宿所氏名
三　前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條　通常爲替證書ニシテ左ノ事項ヲ明ラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

一　爲替金額
二　爲替證書ノ記號番號
三　爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條　左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

一　通常爲替證書違式ノトキ
二　通常爲替振出請求書違式ノトキ
三　通常爲替振出請求書未達ノトキ
四　通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ
五　拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條　拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖モ其ノ停延期間内ニ事故判由及日數ヲ記載證印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十四條　第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス
明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條　通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條　通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セサル爲替金ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第三節　拂渡停止及拂戻

第二十七條　通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ
前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十八條　郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖モ拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十九條　第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ
差出人通常爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條　通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ振出郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ
振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲

拂金拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條　第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條　本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節　拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第三十四條　通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條　通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セントスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十六條　通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且ツ通常爲替證書ヲ呈示スヘシ

第三十七條　前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十八條　郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章　電信爲替

第三十九條　電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十條　電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條　拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニヨリ電信爲替證書ヲ作リ之ヲ受取人ニ送達ス

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十二條　第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除ク外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章　小爲替

第四十三條　小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條　小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ナシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメントスルトキ又ハ隨意ノ郵便局

所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキハ受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十五條　小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其指定ヲ取消サントスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其認可ノ證印ヲ受クヘシ

第四十六條　小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セントスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條　小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

一　爲替金額

二　爲替證書ノ記號番號

三　受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄

四　爲替證書ノ日附

第四十八條　小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條　第二十二條乃至第二十四條第二十六條第三十條第二項及第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尚差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章　再度證書

第五十條　郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書有效期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求書ニハ有效期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添付差出スヘシ

第五十一條　郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條　前三條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第五十三條　再度證書ノ請求者再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十四條　小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章　郵便爲替金拂渡濟通知

第五十五條　郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金拂渡濟通知ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第五十六條　前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條　郵便爲替金拂渡濟通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條　郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡濟通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡濟通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條　拂渡郵便局所ニ於テ拂渡通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ルモノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第七章　郵便爲替金居宅拂

第六十條　郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十一條　前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金二錢ヲ納付スヘシ

第六十二條　郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺ス

第六十三條　郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作リ之ニ料金相當ノ郵便切手

ヲ貼付シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條　郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルトキハ其ノ拂渡郵便局所ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到著シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係ルトキハ居宅拂請求書受附ノ日ヨリ遲クモ三日以内ニ之ヲ爲ス但シ第二十二條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス

第六十五條　郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂ヲ了スルコト能ハサルトキハ第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ爲ス

第六十六條　郵便爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ轉居シタルトキ郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前條ノ事故ニ依リ爲替金拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ爲替金居宅拂ノ請求ハ其ノ效ヲ失フ

第六十七條　郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキト雖モ拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

第六十八條　本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十九條　本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年(九月)農商務省告示第二十號郵便爲替細則同二十年(六月)遞信省告示第百十七號郵便小爲替規定同三十二年(十一月)遞信省令第五十一號郵便爲替金居宅拂規則ハ之ヲ廢止

郵便爲替居宅拂規則

（明治三十二年十一月遞信省令第五十一號）

郵便爲替金居宅拂規則左ノ通相定メ來明治三十三年一月十六日ヨリ施行ス

郵便爲替金居宅拂規則

第一條　郵便爲替金居宅拂ハ郵便爲替受取人ノ居宅ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス

第二條　郵便爲替金居宅拂ハ郵便電信局、郵便局又ハ其支局若クハ其郵便區市內ノ郵便受取所ニ振宛テ其郵便區市內ニ居住スル者ノ受取ルヘキ郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ

第三條　郵便爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルトキハ手數料トシテ郵便切手ヲ以テ郵便爲替ハ金五錢小爲替ハ金二錢ヲ前納スヘシ

同一ノ爲替受取人ニ於テ受取ルヘキ爲替二口以上ニ對シ同時ニ其居宅拂ヲ請求スルトキハ其內一口ニ對シ前項手數料ヲ納付シ其他ハ一口毎ニ郵便爲替ハ金二錢、小爲替ハ金一錢ヲ納付スヘシ

但郵便爲替、小爲替合セテ二口以上ナルトキハ先ツ郵便爲替一口ニ對シ前項ノ手數料ヲ納付シ尙ホ他ノ郵便爲替若クハ小爲替ニ對シ本項ノ手數料ヲ納付スヘシ

第四條　爲替差出人該爲替受取人ノ爲メ爲替金ノ居宅拂ヲ請求セントスルトキハ該爲替振出ノ際爲替願書金額ノ下部ニ居宅拂ト記載シ手數料相當ノ郵便切手ヲ添ヘ差出スヘシ

但電信報知ニ依ル郵便爲替又ハ小爲替差出人ハ受取人ノ爲メニ居宅拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　爲替受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セントスルトキハ其宿所氏名、爲替種別、爲替金額（同一ノ拂渡局所ニ於テ受取ルヘキ爲替證書二通以上アルトキハ其振出局所名ヲモ又同一振出局所ヨリ同一ノ拂渡局所ニ振宛テタル二通以上アルトキハ其記號番號ヲモ）ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作リ之ニ手數料相當ノ郵便切手ヲ貼付シ之ヲ拂渡局所ニ差出スヘシ

第六條　爲替金居宅拂ハ其拂渡局所ニ報知書ノ到著シタル日又ハ居宅拂請求書ヲ受付ケタル日ノ翌日又ハ遲クモ其翌々日中ニ其拂渡ヲ取扱フヘシ

但シ報知書ニ不備ノ廉アルカ又ハ報知書未達ノトキハ其旨ヲ爲替受取人ニ通知シ拂渡ヲ停延スルコトアルヘシ

第七條　爲替受取人不在其他ノ事故ニ依リ十分以內ニ其拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ第二回配達月日豫告書ヲ差置キ更ニ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ試ムヘシ

第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前項ノ事故ニ依リ尙ホ爲替金ノ拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキ又ハ爲替受取人轉居シタルトキハ該爲替ニ對スル居宅拂ノ請求ハ其效ヲ失フモノトス

但シ該爲替ニ對シ更ニ居宅拂ヲ請求スルハ妨ケナシ

第八條　爲替受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタル後ト雖モ當該局所ニ就キ之ヲ受取ルコトヲ得

第九條　居宅拂ノ請求ヲ受ケタル爲替ニ對シ郵便局所吏員ノ過失ニ依リ其居宅拂ヲ執行セサリシ場合ニ限リ居宅拂ノ請求ヲ爲シタル日ヨリ二箇月以內ニ該請求人ヨリ其手數料ノ還付ヲ請求スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

第十條　居宅拂請求書ハ免稅郵便ニテ之ヲ差出スコトヲ得

（但シ該請求書封入ノ封皮面ニハ「爲替事務」ト明記スヘシ）

第十一條　爲替差出人ハ前各條ノ規定ニ準シ爲替金ノ返戻拂ヲ請求スルコトヲ得

（但シ其請求書ニハ該爲替振出月日ヲ加記スヘシ）

第十二條　此規則ハ外國郵便爲替ニ適用セス

通常爲替證書一枚ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムルヲ得ル件

（明治三十六年二月遞信省令第六號）

定期又ハ無定期ニ多額ノ金員ヲ郵便爲替ニ依リ送付セントスル者豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クルトキハ通常爲替證書一枚ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル制限額以上ノ爲替金ニ對スル爲替料ハ一般規定ノ爲替料ノ割合ニ依ル

前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ送金ノ目的、認可ヲ受ケントスル證書一枚ノ最高金額及振出郵便局所名等ヲ記載シタル認可申請書ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

高額爲替振出ノ認可ヲ受ケタル者一箇年間其振出ヲ爲ササルトキハ認可ノ效力ヲ失フモノトス

在清韓國郵便局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各局所間ニ取組ム爲替金額制限ノ件

清國又ハ韓國ニ設置シタル郵便局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各郵便局所トノ間ニ取組ム通常爲替ハ其證書一枚ノ金額制限ヲ百圓トス

（明治三十六年二月遞信省令第四號）

臺灣及清韓國間郵便電信爲替料ノ件

（明治三十三年九月遞信省令第六十五號）

清國又ハ韓國ニ設置シタル郵便局所相互間又ハ同局所ト臺灣各郵便局所トノ間ニ取組ム電信爲替料金及內地各郵便局所ト臺灣各郵便局所トノ間ニ取組ム郵便爲替料金ハ明治三十六年二月遞信省令第五號ヲ以テ本令ヲ改ム）日ヨリ施行ス

一在清國各局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各局所トノ間

通常爲替　金額十圓迄　十錢
　　十圓ヲ超過シタル分ニ對シテハ十圓迄ヲ增ス每ニ十錢ノ割合ヲ以テ加徵ス

小爲替　五錢

內地各局所及臺灣各局所間

電信爲替　金額十四圓以內　五十錢
　　同二十圓以內　六十錢
　　同三十圓以內　七十錢
　　同四十圓以內　八十錢
　　同五十圓以內　九十錢

在韓國各局所ト相互間又ハ同局所ト內地及臺灣各局所トノ間但在韓國各局所相互間ニ取組ム電信爲替料金ハ郵便爲替規則第三條ノ規定ニ依ル

通常為替	金額十圓迄	六錢
	同二十圓迄	十五錢
	同三十圓迄	十八錢
	同四十圓迄	二十二錢
	同五十圓迄	二十八錢
	同六十圓迄	三十二錢
	同七十圓迄	三十七錢
	同八十圓迄	四十錢
	同九十圓迄	四十四錢
	同百圓迄	
電信為替	金額十圓以内	八十錢
	同二十圓以内	九十錢
	同三十圓以内	一圓
	同四十圓以内	一圓十錢
	同五十圓以内	一圓二十錢
郵便為替規則第四十條ニ依ル至急電報料		一圓二十錢

郵便為替證書線引讓渡規則

（明治三十四年三月遞信省令第十三號）

郵便為替證書線引讓渡規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

郵便為替證書線引讓渡規則

第一條　郵便為替證書ハ其裏面ニ二條ノ平行線ヲ畫シ銀行ニ對シ任意ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得

但シ特ニ銀行ヲ指定セントスルトキハ其線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

讓受銀行ハ前項郵便為替證書ニシテ銀行ノ指定ナキモノハ引渡ニ依リ又其指定アルモノハ其指定ヲ抹消シ前項ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモノヲ特ニ銀行ヲ指定シテ讓渡セントスルトキハ證書裏面ノ平行線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二條　線引ヲ為シタル郵便為替證書ニシテ銀行ノ指定アルモノハ其指定銀行ノ又指定ナキモノハ一般銀行ノ請求ニ應シ之カ拂渡ヲ為スヘシ

第三條　線引ヲ為シタル郵便為替證書ニ對シ銀行ヨリ為替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ郵便為替規則第二十條ノ手續ヲ為サス之カ拂渡ヲ為スヘシ

第四條　郵便局所ハ交換所組合銀行ノ請求アルトキハ交換所所在地ニ限リ特ニ定ムル交換方法ニ依リ線引ヲ為シタル郵便為替證書ニ對シ之カ拂渡ヲ為スコトアルヘシ

郵便為替證書線引讓渡規則ヲ外國郵便為替ニ準用ノ件

（明治三十四年五月遞信省令第二十四號）

明治三十四年(三月)遞信省令第十三號郵便為替證書線引讓渡規則ハ之ヲ外國郵便為替ニ準用ス但シ萬國聯合郵便為替ニ在リテハ為替劵ノ裏面ニ於ケル讓渡裏書ノ場所ニ線引ヲ為スヘシ

線引ヲ為シタル外國郵便為替劵ニ對シ銀行ヨリ為替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ外國郵便為替規則第二十二條ノ手續ヲ為サス之カ拂渡ヲ為スヘシ

第三章　郵便貯金

郵便貯金條例

（明治二十三年八月法律第六十三號）

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコ

トヲ命ス

郵便貯金條例

第一條　郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條　郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條　郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條　郵便貯金一人一度ノ預金ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條　郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シテ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及十錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發布ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條　郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債證書ハ額面五十圓又ハ五十圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條　郵便貯金ノ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以內ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條　郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲナサシム

第十條　郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿二年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條　郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求シタル日又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請

戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滞期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尚二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條　郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條　郵便貯金項ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條　郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條　郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條　郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス

第十七條　本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

郵便貯金條例施行細則

（明治二十四年一月一日ヨリ實施ス）

（明治二十三年十二月遞信省令第二十三號）

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

郵便貯金條例施行細則

第一款　貯金預入

第一條　郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ之ニ居所、職業、氏名ヲ記載調印シ且印鑑ノ部ニ捺印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ（明治三十一年十一月遞信省令第二十八號ヲ以テ改正ヲ加フ）

第二條　貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名、居所ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ（明治三十一年五月遞信省令第八號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三條　貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ其記入ヲ受クヘシ

第四條　貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載シ記名調印ノ上日附印ヲ押捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條　貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ差出中預ケ金ナナサントスルトキハ預金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領證スヘシ（明治三十一年十一月遞信省令第二十八號ヲ以テ本條ヲ改ム）

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條　貯金預ケ人預ケ金記入濟ノ通帳ヲ受領シタル通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條　貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其ノ原簿ニ登記シ貯金登記濟通知書ヲ添ヘ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人貯金ヲ爲シタル日ヨリ三十日（島嶼又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ）以内ニ貯金登記濟通知書到達セサルトキハ其期日ノ翌日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條　貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條　印形ヲ所持セサル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ管理者一名、又二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ（明治三十一年五月遞信省令第八號ヲ以テ第二項第三項ヲ削リテ本項ト爲ス）但一名ニ限リ加印者ヲ定ムルコトヲ得

第十條　町村、學校、病院、社寺、會社、組合及共同ノ預金ハ其町村、學校、病院、社寺、會社、組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第十一條　印形ヲ所持セサル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尚引受人記名調印ヲスヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ハ共名稱ヲ肩書シ管理者記名調印スルカ若ハ共名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且ツ管理者記名調印シ又共同貯金ハ總代人記名調印スヘシ但加印者アルトキハ尚加印者連署スヘシ（同上）

第十二條　郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移轉シ又ハ同分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通帳ヲ差出シ其引換ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テ通帳ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモトトス

第二款　貯金拂戻

第十三條　貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但貯金幾部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢以上ノ預ケ金ヲ殘シ證ク（明治三十五年五月遞信省令第十七號ヲ以テ本但書ヲ改ム）

第十四條　貯金預ケ人貯金ノ幾部拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル貯金拂戻請求書用紙ニ通帳ノ記號番號金額拂戻金ノ拂渡ヲ受ケムトスル局所名居所及氏名ヲ記載捺印シ之ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル貯金取扱局所ヲ受持區域トスル郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ之ヲ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ(同上)

貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書ニ相當事項ヲ記載捺印シ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

但拂戻請求書ニハ金額ヲ記載セス其右方餘白ニ全拂ノ文字ヲ記載スヘシ

第十五條　貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以內ニ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求者ノ居所ニ發送シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡局所ニ送付ス(同上)

若シ相當ノ時限內ニ拂戻證書到達セサルカ又ハ到達セサルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便貯金爲替分局受持區內ノ貯金局取扱所ヨリ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條　貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書記名ノ下ニ調印シ通帳又ハ通帳受取證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上拂渡局所ハ拂戻證書及通帳又ハ通帳受取證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上拂戻金ヲ交付ス(同上)

但貯金幾部拂戻ノ場合ニ於テハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條　代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人屆書ヲ添ヘテ之ヲ拂戻局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ屆書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ一箇月二回金三十圓迄ヲ限リ即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ十錢以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス(同上)

一　預ケ金ヲ爲シタル局所ニ其預入金額ノ內幾部拂戻ヲ請求スル場合

一　再度通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ繰越金額ノ內幾部拂戻ヲ請求スル場合

一　相續シタル貯金ノ轉記濟通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ其轉記金額ノ內幾部拂戻ヲ請求スル場合

第十九條　貯金預ケ人特ニ指定シタル貯金取扱局所ニ於テ豫メ特別取扱ノ認可ヲ受クルトキハ前條各號ノ場合ニ限リ金額及回數ニ制限ナク即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

貯金預ケ人最初預入ノ際特別取扱ノ認可ヲ受ケムスルトキハ預入申込書ノ副本ヲ差出スヘシ(同上)

既ニ通帳ヲ所持スル者特別取扱ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ通帳ヲ呈示シ且預入申込書ノ副本ヲ差出スヘシ此場合ニ於テハ手數料トシテ郵便切手ヲ以テ金五錢ヲ納付スヘシ

貯金取扱局所ニ於テ特別取扱ヲ認可スルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知ス

第二十條　貯金預ケ人第十八條又ハ第十九條ニ依リ貯金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル貯金即時拂戻請求書用紙ニ相當事項ヲ記載捺印シ通帳ト共ニ之ヲ拂戻ヲ請求セムトスル貯金取扱局所ニ差出スヘシ(同上)

貯金取扱局所ニ於テ第十八條依ニル即時拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シタル上拂戻證書ヲ調製シ且通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ通帳ト共ニ之ヲ請求人ニ交付ス

但請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ

貯金取扱局所ニ於テ第十九條ニ依ル即時拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書及通帳ヲ預入中込書副本ト對照シ相違ナキヲ確メタル上前項ノ手續ヲ爲スヘシ

貯金拂戻請求人即時拂戻證書ヲ受領シタルトキハ直ニ記名調印シ之ヲ當該局所ニ差出シ拂戻金ノ交付ヲ受クヘシ

第二十一條　貯金預ケ人ハ貯金四位以上ノ幾部拂戻ニ限リ電報拂戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手數料トシテ郵便切手ヲ以テ金三十三錢ヲ納付スヘシ（同上）

貯金預ケ人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第十四條第一項ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書正副二通ヲ調製シ且金額記載ノ直下ニ電報拂戻ノ文字ヲ記載シ正本ノ餘白ニ手數料ニ相當スル郵便切手ヲ貼付シ副本ト共ニ之ヲ拂戻金ノ拂渡ヲ受ケムトスル貯金取扱局所ニ差出スヘシ

第二十二條　前條ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻證書ヲ發行セス電報ヲ以テ拂戻許可ノ旨ヲ拂渡局所ニ通知シ拂渡局所ハ之ヲ請求人ニ通知ス

但郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻施行上特ニ調査ヲ要スルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ通常拂戻ノ手續ヲ爲スコトアルヘシ此場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ先ニ納付シタル手數料ヲ還付ス（同上）

貯金拂戻請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其通知書ヲ拂渡局所ニ差出シ拂戻證書ノ交付ヲ

受クヘシ

第二十三條　第十六條ノ規定ハ貯金電報拂戻金受授ノ場合ニ之ヲ準用ス（同上）

第三款　貯金預ケ人異動

第二十四條　貯金預ケ人氏名、居所、印形ニ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シタルトキハ其引受人、管理者、加印者連署ヲ以テ分局ニ届出ツヘシ但改印ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ且届書ハ之ニ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經由差出スヘシ（同上）

第二十五條　共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任者ニ亦届書ニ連署ス後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十六條　貯金預ケ人第二十二條及前項ノ届書ヲ差出ストキハ各二通ヲ調製シ當該貯金取扱局所ヲ經由差出スヘシ（同上法令ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第二十七條　貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出ストキハ之ヲ

第四款　貯金通帳利子記入

第二十七條　貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出ストキハ之ヲ

第二十三條ノ届書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通帳ノ氏名、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ廉ヲ訂正スヘシ（同上）

貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ（同上法令ヲ以テ本條第二項ヲ改メ尚本條ニ存セシ第三項ヲ削ル）

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳ハ讓ニ交付セル通帳受取證書ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通逢書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ還付スヘシ

通帳差出人前項ノ通逢書ヲ受ケタルトキハ讓ニ領置セル通帳受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入濟通帳ヲ受領スヘシ

第二十八條　（同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル）

第五款　貯金再度通帳

第二十九條　貯金預ケ人所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通帳ヲ差出シ再度通帳ノ交附ヲ請求スヘシ但請求書及通帳ハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通帳亡失ノ爲メ再度通帳ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通帳ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通帳ヲ發見シタルトキハ之ヲ返付スヘシ

第三十條　郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求人指定ノ再度通帳交付局所ニ送達ス（同上）

第三十一條　（同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル）

第三十二條　貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ通帳

受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス（明治三十一年五月遞信省令第八號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三十三條　貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手數料金五錢ヲ徵收スヘシ但天災其他避クヘカラサル事故ニ因ルトキハ手數料ヲ免除スルコトアルヘシ（同上法令ヲ以テ本但書ヲ追加シ尚三十五年同省令第十七號ヲ以テ改正ヲ施ス）

手數料ハ再度通帳請求書ニ郵便切手ヲ貼附シテ前納スヘシ

第六款　貯金名前書換

第三十四條　貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セムカ爲メ其名前書換ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號名前書換ヲ請求スル事由預ケ人及相續人連署シ且相續人ノ印鑑ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ貯金取扱局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ（三十五年五月遞信省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第三十五條　貯金預ケ人死亡シ其家督相續人又ハ遺産相續人ニ於テ貯金ヲ相續シタル爲メ其名前書換ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ準シ名前書換請求書ヲ調製シ家督相續ノ場合ニアリテハ請求書ニ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ添付シ相當保證人ヲ立テ連署シ又遺産相續ノ場合ニアリテハ請求書ニ相當保證人ヲ立テ連署シ且相續人ノ印鑑ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ貯金取扱局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ（同上）

第三十六條　第三十五條ノ場合ニ於テ家督相續人又ハ遺産相續人既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ名前書換ノ手續ニ準シ之ニ相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ（同上）

第三十七條　郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ第三十四條第三十五條又ハ第三十六條ノ請

求ヲ許可シタルトキハ相當手續ヲ了シ通帳ハ證書ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス（同上）

第三十八條　（明治三十一年遞信省令第八號ヲ以テ本條ヲ削ル）

第七款　貯金拂戻證書ノ亡失、毀損、汚斑及拂渡局所變更

第三十九條　貯金拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金取扱所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ再度貯金拂戻證書ノ交付ヲ請求スヘシ（明治三十一年十一月遞信省令第二十八號ヲ以テ第三十九條ヲ削リ本條ノ第四十條ナリシヲ繰上ケ尚條中ニ改正ヲ施ス）

第四十條　貯金拂戻證書亡失ノ爲メ再度貯金拂戻證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ノ第四十一條ナリシヲ繰下ケ尚本條中ニ改正ヲ施ス）

第四十一條　貯金預ケ人貯金拂戻證書ニ記載シタル局所ニ於テ拂戻金ヲ受取ルニ不便ナルトキハ貯金取扱局所ニ拂戻證書ヲ示シ拂渡局所變更請求書ヲ差出スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ追加ス）

第八款　公債證書ノ購入、保管、下渡

第四十二條　貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書若ハ大日本帝國政府五分利公債證書トシテ總テ無記名トス（明治三十一年二月遞信省令第三號ニテ全條改正）

公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其種類ヲ指定スヘシ若シ其指定ナキトキハ郵便爲替貯金管理

所ニ於テ之ヲ選定スヘシ

第四十三條　公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス時價トハ東京ニ於ケル購入前日ノ實買價格ヲ云フ（明治三十一年五月遞信省令第八號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第四十四條　公債證書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手數料ヲ徵收スヘシ

公債證書金額　五十圓マテ　金二十錢

同　百圓マテ　金三十錢

以上五十圓ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ加フ

第四十五條　公債證書ノ購入ヲ請求セムトスル者ハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル公債證書購入請求書用紙ニ通帳ノ記號番號公債證書保管證書ノ種類、額面金額、公債證書ノ交付ヲ受ケムトスル局所名、居所及氏名ヲ記載捺印シ第十四條第一項ノ例ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ（三十五年五月遞信省令第十七號ヲ以テ本條ヲ削ル）

但營利ヲ目的トセサル法人ニ於テ本條ノ請求ヲ爲ストキハ購入請求書ニ法人登記ノ謄本又ハ相當證明書ヲ添付スヘシ

第四十六條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以內ニ公債證書ヲ購入スルモノトス

第四十七條　公債證書購入ノ代金及手數料ハ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ（同上）

第四十八條　郵便爲替貯金管理所ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ且公債證書保管證書ヲ請求人指定ノ局所ニ送達ス（同上）

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定局所ニ通帳ヲ差出シ公債證書保管證書ノ交付ヲ請求スヘシ

貯金取扱局所ハ通帳ニ公債證書購入代金及手數料金ヲ記入シ公債證書保管證書ト共ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十九條　保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取リ其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ

第五十條　保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求セムトスル者ハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル公債證書下渡請求書用紙ニ通帳ノ記號番號、公債證書ノ額面金額、保管證書ノ記號番號、公債證書ノ交付ヲ受ケムトスル局所名居所及氏名ヲ記載捺印シ第十四條第一項ノ例ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ（同上）

第五十一條　郵便爲替貯金局所ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書及下渡請求書ヲ廻付シ其旨ヲ請求人ニ通知ス（三十五年五月遞信省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改ム）

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前ニ受領シタル公債證書保管證書ヲ下渡局所ニ差出シ且下渡請求書ニ受領證印ヲ受領スヘシ

第九款　雜則

第五十二條　（同上法令ヲ以テ本條ヲ削ル）

第五十三條　貯金預ケ人郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ヨリ檢閱ノ爲メ通帳ヲ差出スヘキ旨通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ差出スヘシ（同上法令ヲ以テ本條改正）

貯金預ケ人ハ通帳ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出シ其檢閱ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持通帳ノ記號番號ヲ記載シ又ハ之ヲ郵送スルトキ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ

第五十五條　天災其他非常ノ場合ニ於テハ特ニ本則ニ定メタル手續ヲ省略シテ取扱ハシムルコトアルヘシ（明治二十六年遞信省令第十七號ヲ以テ本條追加）

郵便貯金利子ノ割合

（明治三十一年四月勅令第七十三號）

朕郵便貯金利子割合改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年四月一日以後付スヘキ郵便貯金利子ノ割合ハ一箇年元金百分ノ四分八厘トス但シ明治二十三年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金十圓ヲ超過シタルモノニ對スル利子ノ割合ハ一箇年元金百分ノ三分六厘トス

郵便受取所ニ於テモ郵便爲替郵便貯金事務ヲ取扱ハシムルノ件

（明治二十六年七月遞信省令第三十六號）

特ニ指定スル郵便受取所ニ於テハ自今郵便爲替ノ受拂又ハ郵便貯金ノ預入拂渡ヲモ取扱ハシム

（明治三十年十二月遞信省令第三十六號ヲ以テ「拂渡」ノ二字ヲ加フ）

但從來郵便受取所ニ併設セル郵便爲替取扱所又ハ郵便貯金預所ノ事務ハ本年八月一日ヨリ其事務ヲ併設セル郵便受取所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

郵便切手貯金規則

（明治三十三年三月遞信省令第二號）

郵便切手貯金規則左ノ通相定メ本月十六日ヨリ施行ス

郵便切手貯金規則

第一條　郵便切手貯金ハ郵便切手ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲スモノトス

第二條　郵便切手貯金ノ預入額ハ一人一箇月一圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　郵便切手貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ郵便切手貯金受紙初頭ニ印刷シアル郵便切手印面金額ト同一ノ郵便切手ヲ其相當欄全部ニ貼付シ之ヲ貯金通帳ニ添ヘ貯金取扱局所ニ差出スヘシ（明治三十六年四月遞信省令第二十號ヲ以テ本條ヲ改ム但舊郵便貯金受紙ハ當分ノ內從前ノ通之ヲ使用セシム）

第四條　第三條ノ制限ヲ超過シテ預入ヲ爲シタル者アルトキハ其超過シタル金額ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

第五條　郵便切手貯金受紙ハ左ノ三種トシ各其印面金額ヲ以テ郵便局所ニ於テ之ヲ發下クルモノトス（明治三十三年九月遞信省令第七十一號ヲ以テ本條ヲ改メ同三十六年四月同省令第二十號ヲ以テ又改ム但舊郵便貯金受受紙ハ當分ノ內從來ノ通之ヲ使用セシム）

一五厘郵便切手貯金受紙

一壹錢郵便切手貯金受紙

一貳錢郵便切手貯金受紙

證券郵便貯金規則

（明治三十四年三月遞信省令第十二號）

證券郵便貯金規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

證券郵便貯金規則

第一條　郵便貯金預ケ入ハ支拂期ノ開始セル無記名證券又ハ其利札ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲スコトヲ得

所得稅ヲ要スル證券ノ利子ニ關シテハ其所得稅ニ相當スル金額ヲ引去リタル殘額ヲ以テ貯金預入額トス

前項ノ證券ニシテ割增金附ノモノナルトキハ其割增金モ共ニ預入ヲ爲スコトヲ得（明治三十六年六月遞信省令第三十七號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第二條　前條郵便貯金ニ預入ヲ爲シ得ヘキ證券又ハ利札ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　證券又ハ利札ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ證券種別明細書用紙ヲ申受ケ之ニ證券又ハ利札ノ種類、記號、番號及金額等ヲ記載シ證券又ハ利札ト共ニ之ヲ貯金通帳ニ添付差出スヘシ

第四條　郵便貯金ニ受入レタル證券又ハ利札ニハ郵便局所ニ於テ其裏面ニ日附印ヲ押捺スヘシ

第五條　證券又ハ利札ヲ以テ預入ヲ爲シタル郵便貯金ハ郵便局所ニ於テ其證券又ハ利札ニ對スル現金ノ支拂ヲ受ケタル後之ヲ貯金原簿ニ登記ス

郵便貯金ニ受入レタル證券又ハ利札ニシテ現金ノ支拂ヲ受クルコト能ハサルトキハ之ニ對スル貯金ノ預入ヲ取消シ證券又ハ利札ハ之ヲ預ケ人ニ還付スヘシ

第六條　證券又ハ利札ヲ以テ預入ヲ爲シタル郵便貯金原簿ニ登記シタル後ニ非ラサレハ之カ拂戻ヲ爲サス

第二篇　電信

電信法（明治三十三年三月法律第五十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル電信法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

電信法

第一條　電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　左ニ揭クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一　一郡宅內若ハ一構內ニ於テ專用ニ供スル爲施設スルモノ

二　鐵道業其ノ他電信電話ノ專用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三　公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村內若ハ郡接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區內ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四　電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ專用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五　一市區町村內若ハ郡接市區町村內ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村內ニ於テ一人又ハ一營業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ依リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條　政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用ン必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條　政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條　電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條　電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條　宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條　電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用ヰタル秘辭隱語ノ說明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ說明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條　電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電報ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條　發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徵收ス

第二十條　電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十一條　電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條　電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條　電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條　本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條　電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條　權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第三條第一項ニ依ル場合ヲ除ク外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第二十九條　第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ川地建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ通行錢ヲ强要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條　電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條　不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條　自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛僞ノ電報ヲ發シ

タル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス

電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ二等ヲ加フ

第三十四條　電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脫シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條　電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條　電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障碍シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障碍シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條　電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ヲ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條　主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條　第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條　法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條　公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條　電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條　帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第四十六條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

電報規則

（明治三十三年九月遞信省令第四十六號）

電報規則左ノ通之ヲ定ム

電報規則

第一章　總則

第一條　電報ヲ別テ左ノ三種トス

一　官報

二　局報

三　私報

第二條　官報トハ官廳及地方自治體ノ公信竝外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發

スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス

國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報竝戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ノ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得官報發送ノ資格ナキモノト雖受取タル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三條　局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ

前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條　私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條　電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ

一　至急官報

二　至急局報

三　至急私報

四　官報

五　局報

六　私報

第六條　同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送スヘシ

之ヲ傳送配達スヘシ

第七條　發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章　電報書法

第八條　電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用ウヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキモノトヲ混用スルコトヲ得ス

一　和文電報ニ用ウヘキモノ

片假名

イ　ロ　ハ　ニ　ホ　ヘ　ト　チ　リ

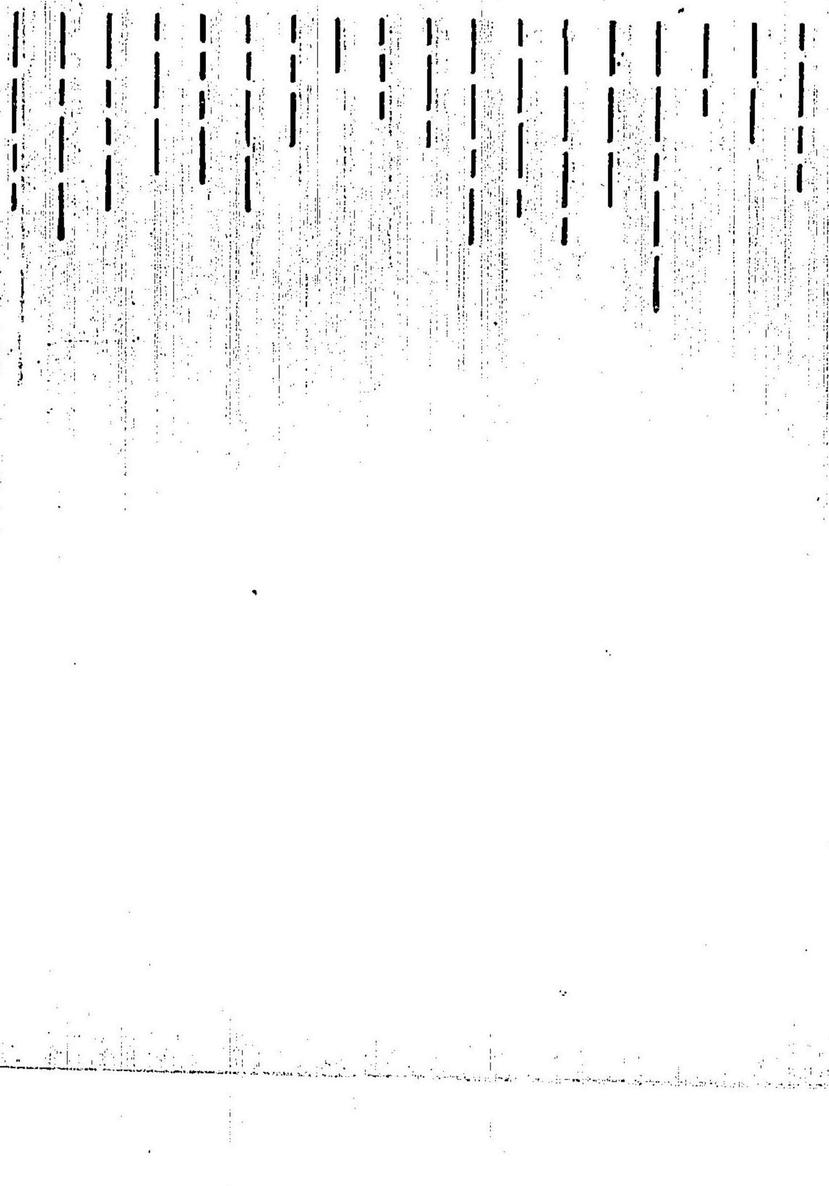
ヌ ル チ ヲ カ ヨ タ レ ソ ツ ネ ナ ラ ム ウ ヰ ノ オ ク 六

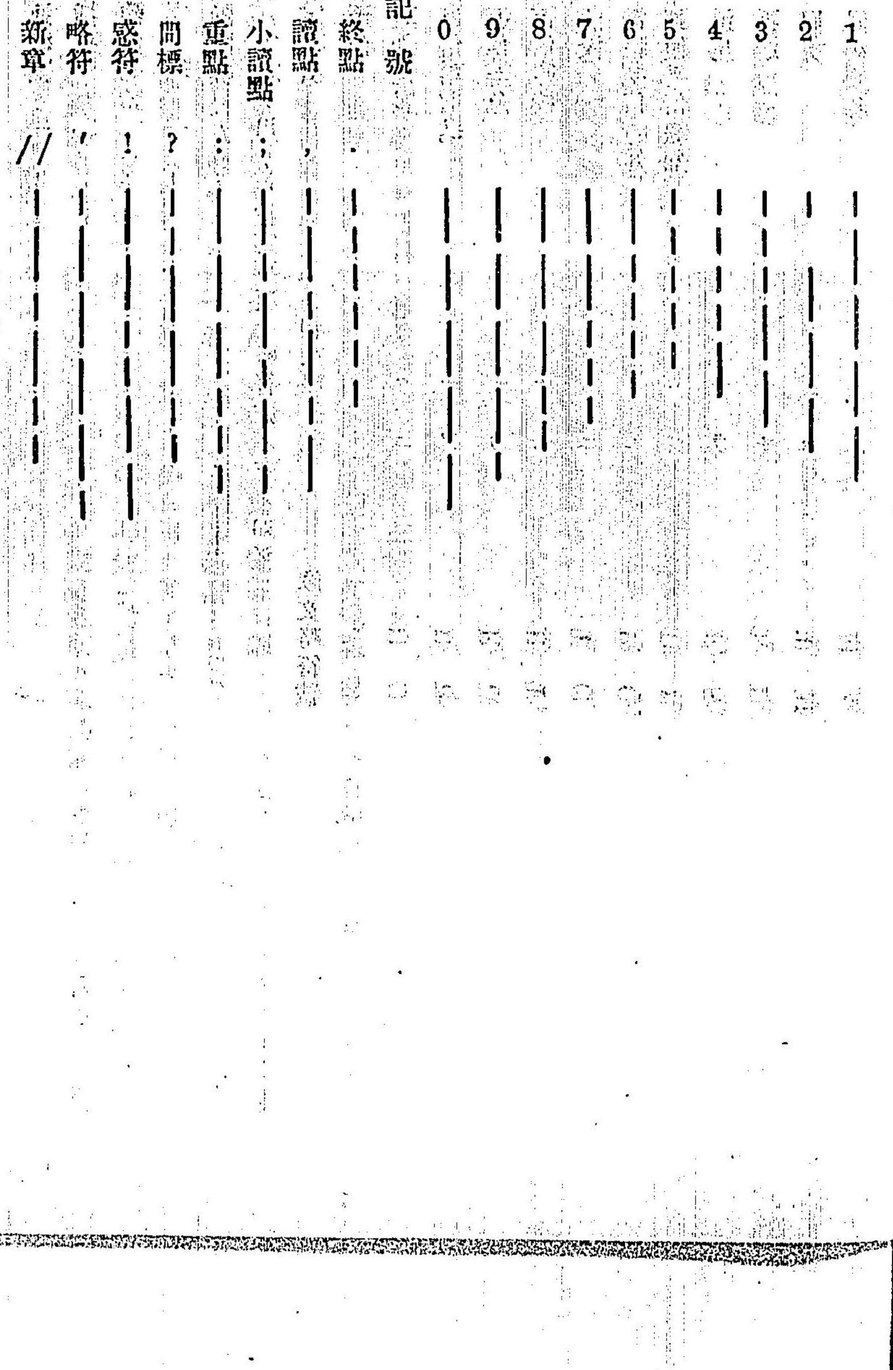
ヤ マ ケ フ コ エ テ ア サ キ ユ メ ミ シ エ ヒ モ セ ス

ン	
ヽ(濁點)	
○(半濁點)	
數字	
一	
二	
三	
四	
五	
六	
七	
八	
九	
○	
記號	
長音	
句讀點。	
新章	」
括弧	（）

小括弧	「」
歸除線	／
二	歐文電報ニ用ヰヘキモノ
羅馬字	
A	
Ä	
A	
Å	
Á	
ク	ハ
B	
C	
CH	
D	
E	
É	
F	
G	
H	
I	
J	
K	

亞剌比亞數字





連綴點	＝
括弧	( )
轉倒句讀	“ ”
字下線	—
歸除線	/

第九條　電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウナ	UR
至急親展	ウニ	UC
返信料前納	ナツ	RP
返信至急	ナウ	RU
返信照校	ナム	RT
照校	ムニ	TC
電報受信通知	ツニ	PC
郵便受信報知	ツツ	PP
追尾	チラ	FS
再送	ナチ	RF
同文	ムヨ	TM
同文連名	ヨイ	MA

指定事項	和文略符號	歐文略符號
外國郵送	ツタ	PN
留置	ムナ	TR
別使配達	ヤツ	XP
艀船配達	ハホ	BD
別使料電報報知	マム	XT
別使料郵便報知	マヨ	XM
書留郵便配達	ツナ	PR
無線配達	ナレ	RO
局待	ヤム	WT
親展	ニカ	CL

第十條　電報ニ用ウル語辭ハ普通辭秘辭隱語ノ三種トス

第十一條　普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語、歐文電報ニ於テハ羅甸語又ハ歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用ヰタル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス

第十二條　隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用ヰ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用ヰ日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅甸ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國電信總理局刊行ノ隱語集ニ記載スルモノノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十三條　祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス

歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條　濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條　和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞剌比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十六條　和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ羅馬字又ハ亞剌比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條　羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ多少ニ拘ハラス一箇ノ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用ヰルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條　羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞剌比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞剌比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス

第十九條　電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限リ之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條　受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若シ其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條　受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村內ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」「氣付」又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條　電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條　發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條　電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條　發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ナキ電報トシテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略符號ニ改書スヘシ

第二十六條　發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三章　字數及語數計算

第二十七條　電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

一　本文

二　歐文電報ノ受信人居所氏名

但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

三　和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名竝逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所

四　傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五　指定事項

六　第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條　和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條　歐文電報中ニ用ヰタル羅馬字、亞剌比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

第三十條　歐文ノ普通辭ハ二語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超ユルモノハ十五字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條　歐文電報中ニ用ヰタル亞剌比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超ユルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條　歐文電報中羅馬字又ハ亞剌比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條　歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條　普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ二語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條　第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條　歐文電報中第十二條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯結若ハ省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證明シ得ヘキ聯結語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條　歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算ス

一　順序數ヲ示ス爲ニ亞剌比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二　商標、祕辭又ハ亞剌比亞數字ノ聯集中ニ用ヰタル諸點及略除線

第三十八條　歐文電報中連續點ヲ以テ繫キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ每分語ヲ一語ニ計算ス但シ其ノ連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條　歐文電報中ニ用ヰタル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條　歐文電報ノ指定事項ニ用ヰタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章　料金

第四十一條　通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

一市區町村內ニテ發受スル電報料

一　和文　片假名十五字以內　金十錢

五字以內ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ增ス

二　歐文　五語以內　金十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ增ス

前項以外ノ電報料

一　和文　片假名十五字以內　金二十錢

五字以內ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ增ス

二　歐文　五語以內　金二十五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ增ス

第四十二條　電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖モ十五字以內ノ電報料ヲ課ス

第四十三條　第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニアラス

第四十四條　特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條　電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四十六條　電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ク

第四十七條　左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

一　電報局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遲レテ

一　到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二　電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ闕キタルモノノ料金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三　電信局所ノ過失ニ依リ徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四　發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及配達料

五　電報直配達區域內ニテ配達シタル電報又ハ別使、解船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲ササリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六　返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ料金

七　第百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料金

八　返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セサリシトキ又ハ返信料前納電報ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セサリシトキハ前納シタル返信料金

九　發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條　電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條　電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信料前納證書ヲ使用セサリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

第五十條　同文電報ノ內一通若ハ數通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料及同文電報料ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其ノ得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條　二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收ス

第五十三條　電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキハ其ノ內ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五章　電報差出

第五十四條　電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第五十五條　郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限リ無料トナスコトヲ得

第五十六條　電信局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報受付時間外ニ限リ發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得

第五十七條　左ニ揭ク電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以內ニ其ノ電報配達人ニ依託シテ電報ヲ差出スコトヲ得

一　返信料前納電報

二　局待電報

三　別使配達電報

四　艀船配達電報

第五十八條　豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得

第五十九條　第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到著シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報受付時間外ニ到著シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル前項ノ電報ハ總テ翌日受付開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條　書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條　發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十三條　電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條　發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條　受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條　封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條　別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内毎ニ金二十五錢ヲ增ス

島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達實費之レニ超過シタルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スヘシ

著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テハ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條　受信人ノ追納スヘキ別使配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ增納スヘシ

發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條　艦船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第七十一條　艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十二條　書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條　發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限リ其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金三錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條　發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六章　電線託送

第七十五條　電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條　電話加入者ノ使用ニ屬スル電信局ニ連接スル電信電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七十七條　前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス

前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所ヘ報信スルモノ亦同シ

第七十八條　電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條　郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ

第七十六條ノ屆出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條　電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章　電報配達

第八十一條　電信局所ヨリ陸上一里以內及其ノ局所所在ノ市區內ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域內ニ編入スルコトアルヘシ（明治三十五年遞信省令第十號ヲ以テ但書ヲ改ム）

第八十二條　電報直配達區域內ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十三條　電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ

第八十四條　電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條　別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條　受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條　受信人電報ノ配達ヲ待タス著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條　局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條　局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖モ著信ノ際證票ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條　局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所ヘ屆出ツヘシ此ノ證票ハ其報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ效ヲ失フ

第九十一條　局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條　略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金竝其ノ納付手續ハ之ヲ定ム

第九十三條　受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ內ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條　電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尚其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條　受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ掲示スヘシ

第九十六條　電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到著シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ掲示スヘシ

第九十七條　發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得

其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日トス

第八章　尋問改正及停止

第九十八條　發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條　發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第百條　發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停正ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第百一條　尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第百二條　改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第百三條　受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第百四條　本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章　閱覽正寫

第百五條　發信人又ハ受信人ハ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報捜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第百六條　電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第百七條　電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ二百字以內每ニ金五錢歐文ハ五十語以內每ニ金十錢ヲ納ムヘシ

電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章　特別電報

第一節　至急電報

第百八條　至急電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百九條　至急電報料ハ左ノ如シ

官報ハ普通電報料ノ二倍ヘ

私報ハ普通電報料ノ三倍ヲ

第二節 返信料前納電報

第百十條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略符號 普通電報料ヲ前納スルトキ

二 返信至急ノ略符號 至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略符號 照校電報料ヲ前納スルトキ

和文十五字歐文五語ヲ超エサル返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ附記スヘシ

第百十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一 受信人名

二

三 發信局所名發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第百十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過ルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第百十三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料

金納付濟ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ

若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第百十四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其證書ハ使用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第百十五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキハ又ハ該期間滿了後三十日以內ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第百十六條 照校電報ハ普通電報ヲ以テ指定スヘシ

第百十七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反復校正スルモノトス

第四節 受信電報

第百十九條 發信人ノ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得其ノ電報ハ受信人ニ電報トシ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略符號 電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

二 郵便受信報知ノ略符號 郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第百二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知

料ハ一通毎ニ金三錢トス

第百二十一條　受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第五節　頻通

第百二十二條　受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第百二十三條　電報受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知スヘシ

第百二十四條　電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使、艀船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ通知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第百二十五條　受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第百二十三條及第百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節　追尾電報

第百二十六條　發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百二十七條　追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第百二十八條　追尾電報ノ受信人ノ居佔分明ナル限刻之ヲ追尾スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第百二十九條　追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徵收スヘシ

第百三十條　左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得

一　別使料電報　報知ヲ要スル電報

二　別使料郵便報知ヲ要スル電報

三　返信料前納電報

四　受信電報

五　同文電報

六　外國郵送電報

第六節　再送電報

第百三十一條　受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第百三十二條　留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第百三十三條　一旦配送ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第百三十四條　電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シアル指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第百三十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求

スルコトヲ得

第百三十五條　返信料前納電報ハ受信電報又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第百十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第百三十六條　電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百三十七條　電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト看做ス

第百三十八條　再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第百二十九條ノ例ニ依リ計算徵收ス

第百二十七條及第百二十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第百三十九條　同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節　同文電報

第百四十條　發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第百四十一條　同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

第百四十二條　同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第百四十三條　同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

同文電報ノ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十

相當略符號ヲ記載スヘシ

第八節　外國郵送電報

第百四十六條　外國へ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ著信局所名ヲ付記スヘシ

第百四十七條　外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第百四十八條　外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便局所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附則

第百四十九條　此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年（五月）布達第七號電信取扱規則同二十三年（三月）遞信省令第三號歐文電報略號常用料金額及其ノ納付手續同年（八月）遞信省令第十七號電報局渡規則同年（十一月）遞信省令第二十二號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル規程同二十七年（七月）遞信省令第五號著信局所ヲ指定スル規程同三十年（十二月）遞信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第百五十條、此ノ規則ノ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報ニ適用セス

電信法ヲ無線電信ニ準用ノ件

（明治三十三年十月遞信省令第七十七號）

電信法ノ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

電信法第六條及第七條ニ依ル損害賠償及報酬ノ請求ニ關スル件

（明治三十三年九月遞信省令第五十八號）

電信法第六條ニ依ル損害賠償又ハ同法第七條ニ依ル報酬ノ請求ハ其ノ損害ヲ加ヘ又ハ助力ヲ受ケタル電信又ハ電話ノ工夫配達人ノ屬スル局所ヲ管轄スル一等郵便電信局又ハ電話交換局ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

一等郵便電信局又ハ電話交換局ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求者ニ通知スヘシ

電信法第五條ノ電信及電話官署

（明治三十三年遞信省告示第三百四十一號）

電信法第五條ノ電信官署ハ一等郵便電信局、電話官署ハ電話交換局トス

電話機ニ依リ發受スル電報取扱局名

（明治三十三年九月遞信省告示第三百四十號）

電報規則施行ニ付同規則第七十五條及郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ニ依リ電報ヲ發受スル心得左ノ通相定ム

一 電話加入者ニ於テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發送セムトスルトキハ其ノ地ノ電報取扱局ヲ呼出シ先ツ電報ヲ發スヘキ旨ヲ通シ而シテ後左ノ順序ニ依リ電報ヲ通話シ承諾ノ返辭ヲ受クヘシ

和文電報

一 電報ノ種類（官報私報ノ別）

二 電報ノ字數（有料ナル居所氏名ノ字數ト本文ノ字數ヲ區別シテ通話スヘシ例ヘハ受信人二名以上ナレハ最初ノ一名ヲ除キ第二名以下ノ字數又電報送遞紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名ノ記載ヲ受ケムトスルモノナレハ其ノ居所氏名ノ字數ヲ通話シ次ニ本文ノ字數ヲ通話スルノ類）

三 受信人ノ居所氏名

四 電報送遞紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其ノ居所氏名

五 指定事項（至急、返信料前納、照校又ハ別使配遞等ト通話シ略符號ヲ用ユヘカラス）

六 電報ノ本文

七 本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名

八 賴信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番號

九 電報ニ付注意ヲ乞フノ必要アルトキハ其ノ事項

歐文電報

一 電報ノ種類（官報私報ノ別）

二　電報ノ語數（有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數ヲ通話スヘシ例ヘハ十五字以上ヲ聯記シタル語辭ハ一語ト雖ニ語ニ計算サルルモノナレハ有料語數ヲ二語ドシ實際ノ語數ヲ一語ドスルノ類）

三　指定事項（至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通常語ニテ通話シ略符號ヲ用ユヘカラス）

四　電報送達紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其ノ居所氏名

五　受信人ノ居所氏名

六　電報ノ本文

七　本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名又ハ電話番號

八　賴信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番號

九　電報ニ付注意ヲ乞フハ必要アルトキハ其ノ事項

二　電報取扱局ニ於テ電話機ニ依リ電話加入者ヘ電報ヲ送ルトキハ左ノ順序ニ依ルヲ以テ順次之ヲ書取リ受了ノ後承諾ノ旨ヲ返答スヘシ若電報ノ字（語）數ニ相違アルカ又ハ不明ノ點アルトキハ質問ヲ爲スヘシ

和文電報

一　受信人ノ居所氏名

二　電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其居所氏名

三　電報ノ種類（官報私報ノ別）

四　發信局名

五　電報ノ番號

六　受附ノ月日及時分

七　電報ノ字數（最初ニ有料ナル居所氏名ノ字數次ニ本文ノ字數）

八　指定事項（至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ次ニ其ノ略符號ヲ通話ス）

九　電報ノ本文

十　本文ノ末尾ニ發信人ノ居所氏名記載シアルトキハ其ノ居所氏名

十一　電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

歐文電報

一　受信人ノ居所氏名

二　電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名

三　電報ノ種類（官報私報ノ別）

四　發信局名

五　電報ノ番號

六　電報ノ語數（有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數）

七　受附ノ月日及時分

八　指定事項（至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ其ノ次ニ略符號ヲ通話ス）

九　電報ノ本文

十　發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名

十一　電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

三 電話機ニ依リ電報ヲ送受スルニ當リ暗號其ノ他通話上判明シ難キ語辭ハ左ノ番號表ニ依リテ辯明スヘシ殊ニ電報ノ文言ハ專ラ簡略ヲ主トスルカ故ニ普通文ニテモ發音ノ酷似セル（ヘチトシ）（イトエ）又ハ（a ト e）（m ト n）ノ如キハ往々混同シ易ケレハ是等ノ文言ハ番號表ニ依リ通話スル方判然スヘシ

和文

片假名番號表

横番號＼縱番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
一	ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ	ン	。句讀點
二	イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ		リ	ヰ	゛濁點	」新章
三	ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル		゜半濁點	（）括弧
四	エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ		レ	ヱ	ー長音	「」小括弧
五	オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	ヲ		／除線

歐文

羅馬字番號表

横番號＼縱番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	A	F	K	P	U	Z	Ö	. 終點	! 感符	〃 [illegible]
二	B	G	L	Q	V	Ä	Ü	, 讀點	' 略符	字下線
三	C	H	M	R	W	À		; 小讀	// 新章	／ 除線
四	D	I	N	S	X	É		: 重點	— 連綴	
五	E	J	O	T	Y	Ñ		? 問標	( ) 括弧	

假令ハチツト電話スルニハ四ノ二、三ノ二、十一ノ二ト呼ヒ（バ）ト電話スルニハ十二ノ三、六ノ一、十一ノ二、十二ノ三ト呼フノ類ニシテ濁點半濁點ハ總テ其附スヘキ片假名ノ次ニ括弧ハ之ヲ圍ミタル文字ノ前後ニ電話スルモノトス

假令ハ c/o ト電話スルニハ一ノ三、十ノ三、三ノ五ト呼ヒ by ト電話スルニハ十ノ二、一ノ二、五ノ五、十ノ二ト呼フノ類ニシテ字下線ハ之ヲ施シタル語辭ノ前後ニ電話スルモノトス

四 郵便電信局電信局ニ連接スル官廳用又ハ私設ノ電信線又ハ電話線ヲ以テ發受スル電報ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル規程ニ依リ送受スヘシ

五 電線ニ依リ電報ヲ發送スルトキハ豫メ文案ヲ作リ字數又ハ語數ヲ計算シ置キ通信上少シモ支障ナキ樣準備スヘシ

六 電線託送電報發受者ヨリ發スル電報又ハ其ノ依賴ニ依リ發スル電報ニシテ料金ヲ豫納又ハ假納スヘキモノハ其ノ取扱局ヨリ確定シタル料金額ノ通知ヲ受クルモノトス

七 電線託送電報發受者ヨリ電報ヲ發送スル場合ニ於テ自家ノ領收スヘキ返信料前納電報ノ返信用紙ヲ使用セムトスルトキハ先ツ其ノ旨並前ニ通知ヲ受ケタル返信料前納證書ノ番號ヲ通知シ次ニ電報ヲ送ルヘシ

八 電線託送電報發受者ニ於テ受クヘキ電報カ返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ取扱局ヨリ證書發行ノ月日前納ノ金額及證書ノ番號ヲ通知セラルヘク又其ノ電報ニ關シ發受者ノ迫

納スヘキ料金アルトキハ其ノ金額並郵由ヲ通知セラルヘキモノトス而シテ其ノ返信料前納證ハ書ハ前條ニ依リ使用シタルモノヲ除キ翌月十日迄ニ料金納付方ノ通知書ト共ニ交付セラルヘシ

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其納付手續

（明治三十三年九月遞信省令第四十七號）

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續ハ左ノ通之ヲ定ム

第一條　略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一箇毎ニ年額金十二圓トス

局渡料ハ證票一箇毎ニ年額金六圓トス

第二條　前條ノ料金ハ年額ヲ二分シ左ニ揭クル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ交付ヲ受クル電信局所ニ前納スヘシ但シ一二等郵便電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期　十月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條　一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケ若ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルトキハ其ノ期ノ料金全額ヲ納付スルモノトス

第四條　二期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ取消シ又ハ局渡證票ヲ返還スルトキト雖其ノ期ノ料金ハ之ヲ還付セス

第五條　電報規則第九十條第三項ニ依リ更ニ證票ヲ請求スルトキハ證票料トシテ金三十錢ヲ納ムヘシ

第六條　同十ノ略號ヲ內國電報及外國電報ニ通シ用ウル場合ト雖各別ニ其ノ料金ヲ納付スルニ及ハス

第七條　從前ノ規定ニ依リ此ノ規則施行ノ日以後ニ係ル略號常用料又ハ電報局渡料ヲ前納シタルモノハ別紙ニ引續キ其ノ略號ノ登記又ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルモノト看做シ更ニ此ノ規則ニ依リ料金ヲ計算シ不足額ハ之ヲ追納セシメ過剩額ハ之ヲ還付ス

內地臺灣間ニ發受スル私報ノ通常電報料

（明治三十五年十月遞信省令第四十九號）

內地臺灣間ニ發受スル私報ノ通常電報料左ノ通之ヲ定メ明治三十六年一月一日ヨリ施行ス

一　和文　片假名十五字以內　金四十錢

五字以內ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ增ス

二　歐文　五語以內　金五十錢

一語ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ增ス

臺灣島內ニ配達スヘキ電報ノ別使配達料

（明治三十三年九月遞信省令第六十三號）

臺灣島內ニテ配達スヘキ電報ノ別使配達料ハ電報規則第六十七條ニ規定スル金額ノ五倍トス

臺灣宛電報ノ艀船配達實費超過額追納ニ關スル件

（明治三十六年一月遞信省令第三號）

內地發臺灣島內ニ於テ艀船ニ依リ配達スヘキ電報ノ艀船配達實費額カ電報規則第七十條ニ依リ徵收シタル艀船配達料ニ超過シタルトキハ其超過額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘキ電報ノ艀船配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ電報規則第六十九條ノ規定ヲ準用ス但シ其指定事項及略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
艀船料電報知	ハム	B T
艀船料郵便報知	ハヨ	B M

本令ハ明治三十六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則

（明治三十三年四月遞信省令第八號）

本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱ニ關スル件ハ本規則ニ依ル

第二條　對馬釜山間海底電信線ヲ經テ本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間ニ直發著スル電報ハ此規則ニ定ムルモノノ外萬國電信條約ニ據リ取扱フヘシ

但明治三十年（五六月）遞信省令第十七號ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第二條　和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以內每ニ一語トス

字數ニ算入スヘキ文字ノ記載ナキ和文電報ハ一語トシテ料金ヲ課ス（明治三十三年遞信省令第五十九號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第三條　軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ釜山京城及仁川間ニ限リ他ノ官報ニ先タチ傳送ス

第四條　左ニ揭クルモノハ內國電信ノ規定ヲ準用ス（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　和文電報ノ書法及字數計算

二　歐文電報ニシテ郵便受信報知及別便若ハ艀船配達ヲ要スルモノノ略符號

三　局待又ハ親展トナシタル電報

四　同文電報料額

五　原信正寫手數料額

六　郵便ニ依リ又ハ電報受附函ニ差入レ若ハ電報配達人ニ依託スル電報ノ差出及受附

七　電報料及手數料ノ納付手續

八　電報受取證書手數料

九　在韓國本邦郵便電信局郵便局發本邦著電報ノ配

十　傳送前電報返還ノ手數料

十一　和文電報ニ關シテ假納シタル尋問校正料還付額

十二　電報料及手數料ノ還付ニ要スル物件

第五條　萬國電信條約第七條ニ據リ停止シタル電報ノ料金ハ之ヲ還附セス

第六條　電信受信報知ヲ要スル電報ハ歐文ハ五語分和文ハ二語分ノ料金ヲ增納スヘシ（同上法令ヲ以テ第六條ヲ削リ本條ノ第七條ヲシテ繰上ケテ第六條トナシ以下順次繰上ケ尚第二項ニ改正ヲ加フ）

郵便受信報知ヲ要スル電報ハ內國郵便稅率ニ據リ其郵便稅ヲ增納スヘシ

第七條　無手數料配達區外ニ住居スル發信人ニ於テ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信報知ノ配達ヲ得ントスルトキハ賴信紙ノ端末ニ其旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納ムヘシ（同上省令ヲ以テ本條ヲ改ム）

第八條　韓國ニ宛タル電報ニシテ著信局所在地ニ配達スルモノハ手數料ヲ要セス但解船配達ハ此限ニアラス

第九條　韓國無手數料配達區外ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ別使ヲ以テ配達スヘキモノ及釜山港又ハ仁川港碇泊ノ艦船ニ宛テタル電報ニシテ書留郵便又ハ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ書留郵便、別使又ハ解船配達ノ略符號ヲ以テ之ヲ指定スヘシ其配達方ヲ指定セサルモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ之ヲ配達ス（同上）

第十條　書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ其配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ（同上）

第十一條　在韓國本邦郵便電信局郵便局ニ於テ別使ヲ以テ電報ヲ配達スル コトヲ得可キ地名其配達料及解船配達料ハ別ニ告示スル所ニ據ルヘシ

第十二條　前條ニ據リ別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ發信人ハ其配達料ヲ納ムヘシ

第十三條　國外ニ郵送スヘキ和文電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ（明治三十四年五月遞信省令第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加ス）

在韓國本邦郵便電信局郵便局相互ノ間ニ發著スル電報ニ內國電信ノ規定ヲ準用スル件

（明治三十三年四月遞信省令第九號）

在韓國本邦郵便電信局郵便局相互ノ間ニ發著スル電報ニハ來五月一日ヨリ左記各號ノ規定ヲ除クノ外內國電信ノ規定ヲ準用ス

一　和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以內每ニ一語トス

二　電報料ハ一語ニ付金十錢トス

三　軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ他ノ官報ニ先タチ傳送ス

四　本邦郵便電信局又ハ電報ヲ取扱フ郵便局所在地ニ配達スル電報ハ手數料ヲ要セス但解船配達ハ此限ニアラス

五　別使ヲ以テ電報ヲ配達スルコトヲ得可キ地名其配達料及解船配達料ハ別ニ告示スル所ニ據ルヘシ

六　別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ發信人ハ其配達料ヲ納ムヘシ

七　返信料前納電報ニシテ和文二語、歐文二語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルモノハ其略符號ノ次ニ返信ノ語數ヲ附記スヘシ（明治三十三年九月遞信省令第六十號ヲ以テ本號ヲ改ム）

八　本邦ニ宛テタル和文電報ハ外國郵送電報トナスコトヲ得（明治三十四年五月遞信省令第二十三號ヲ以テ本號ヲ追加ス）

九　和文電信受信報知料ハ一通每ニ二語分ノ通常料金トス（明治三十五年一月遞信省令第二

號ヲ以テ本號ヲ追加ス）

町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル件

（明治三十六年三月勅令第四十一號）

第一條　逓信大臣ハ町村ノ請願ニ依リ電信局所ヲ新設シ其ノ他電信事務取扱ノ便ヲ開クコトヲ得

第二條　前條ニ依ル施設ノ爲要スル創設費ノ全部及維持費ノ一部ハ町村ノ負擔トス維持費ノ負擔區分ハ逓信大臣之ヲ定ム

創設費ハ町村ニ於テ直接ニ之ヲ支辨シ維持費ニ關スル町村ノ負擔ヲ減免ハ

第三條　逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ又ハ天災事變ニ際シ維持費ニ關スル町村ノ負擔ヲ減免ハルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同　施行細則

（明治三十六年三月逓信省令第十三號）

第一條　町村ニ於テ電信事務ノ開始ヲ必要トスルトキハ左記各號ノ事項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ町村長ヨリ逓信大臣ニ願出スヘシ

明治三十六年（三月）勅令第四十一號町村ノ請願ニ依ル電信施設ニ關スル施行細則左ノ通相定ム

一　電信事務ノ開始ヲ必要トスル地名

二　最近電信事務取扱局名

三　電信事務ノ開始ヲ必要トスル地ト最近電信事務取扱局ノ設置アル地ニ至ル距離及其ノ略圖

四　電信事務ノ開始ヲ必要トスル事由

第二條　町村ニ於テ電報ニ關スル通信取扱時間制限ノ解除ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ町村長ヨリ逓信大臣ニ願出ヘシ

第三條　本令ニ依リ町村ノ負擔スヘキ創設費支辨ノ方法及維持費ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　主務官署ニ於テ工事執行中不可抗力其ノ他ノ事故ニ由リ工事ヲ中止又ハ廢止シタル場合ニ於テモ其既ニ爲シタル工事ニ對スル費用ハ町村ノ負擔トス

第五條　本令ニ依リ電信事務開始ノ爲メニ設備シタル物件ハ總テ國庫ノ所有トス但シ通信開始前ニ工事ヲ廢止シタル場合ハ此ノ限ニアラス

前項但書ノ場合ニ於テ其ノ線路及機器ハ主務官署ニ於テ撤去スルモノヲ除クノ外主務官署ノ指定スル所ニ依リ町村ニ於テ撤去スヘシ但シ主務官署ニ於テ撤去ノ爲ニ要スル費用モ亦町村ノ負擔トス

第六條　維持費ハ年額金ヲ二分シ左ニ掲クル二期ノ別ニ從ヒ六月及十二月ニ各其ノ期ノ分ヲ管轄通信管理局又ハ一等郵便局ニ納付スヘシ但シ七月又ハ一月以後ニ電信事務ヲ開始シ又ハ通信取扱時間ノ制限ヲ解除シタルトキハ實施ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ期ノ分ヲ納付スヘシ

第一期　四月一日ヨリ　九月三十日マテ

第二期　十月一日ヨリ　三月三十一日マテ

一期ノ中途ニ於テ電信事務ヲ開始シ又ハ通信取扱時間ノ制限ヲ解除シタルトキハ其ノ開始又ハ解除ノ月ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月数ヲ年額ニ乗シ之ヲ十二分シタルモノヲ以テ其ノ期ノ維持費トス

一期ノ中途ニ於テ電信事務ノ取扱ヲ廃止シタルトキ雖モ其ノ期間ニ属スル維持費ハ全額ヲ納付スルモノトス

第七條　本令ニ依リ電信事務ヲ開始シタルモノハ請願ニ依リ之ヲ廃止スルコトヲ得ス

通信取扱時間制限ノ解除ヲ為シタル場合亦前項ニ同シ

第八條　本令ニ依ル請願ハ二町村以上共同シテ之ヲ為スコトヲ得ス

第九條　本令ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ府縣知事ノ副書ヲ具シ其ノ町村所轄ノ通信管理局又ハ一等郵便局ニ提出スヘシ

第三篇　電話

電話交換規則（明治三十年十二月遞信省令第三十一號）

電話交換規則左ノ通相定ム

電話交換規則

第一章　總則

第一條　此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條　電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　電話加入

第三條　電話交換ニ加入セントスル者ハ一加入毎ニ加入申込書（第一號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ為スコトヲ得ス（明治三十二年一月遞信省令第二號ヲ以テ本條第三項ト為ス）

第四條　加入申込者又ハ加入者其使用ニ供スル電話機ニ依リ特ニ指定スル長距離電話通信ヲ為サムトスルトキハ其申込書（第十二號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

前項ノ申込ヲ取消シ又ハ電話通信ヲ廃止セムトスルトキハ其請求書（第十三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ（同上法令ヲ以テ新設ス）

第五條　電話交換局ニ於テ加入申込書又ハ長距離電話申込書ヲ受理シタルトキハ之ヲ原簿ニ登記シ其申込順番ヲ申込者ニ通知スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

第六條　電話開通ノ順序ハ加入申込ノ順番ニ據ル但官廳公署及公共事業ノ用ニ供スルモノニシテ急速開通ノ必要アルトキ又ハ工事施行上順番ニ據リ難キモノアルトキハ其順序ヲ變更スルコトアルヘシ（明治三十二年六月遞信省令第二十七號ヲ以テ本條改正）

第七條　加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セントスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セントスルトキハ其家屋所有者ノ承

諸書(第二號書式)ヲ請求書ニ添附スヘシ(明治三十一年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第八條　加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セントスルトキハ其請求書(第四號書式)ヲ電話交換局ヘ差出スヘシ(同上)

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書(第五號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者左記各號ノ裝置ヲ爲サムトスルトキハ其請求書ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條　加入申込者又ハ加入者左記各號ノ裝置ヲ爲サムトスルトキハ其請求書ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者私設ノ線條機械及附屬物品ニ關シテハ電話交換局ノ認可ヲ經ヘシ又其維持竝交換取扱方法ハ電話交換局ニ於テ指示スルコトアルヘシ(明治三十五年六月遞信省令第二十五號ヲ以テ本條ヲ改ム)

一　加入電話機ニ受話器ヲ增設セントスルトキ

二　加入電話機設置場所ト同一戶內ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ增設セントスルトキ

三　加入電話機設置場所ト同一ナル自己ノ邸宅構內ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年(九月)遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接續セントスルトキ

四　同一邸宅構內ニ二加入以上ノ電話機ヲ有スル加入者カ其電話機ニ共通スル電話機ヲ增設セントスルトキ

五　前各號ニ依リ增設シ又ハ接續シタル電話機受話器若ハ電鈴ヲ撤去シ及接續ヲ變更又ハ廢

止セントスルトキ

第十條　加入申込者其申込ヲ取消サントスルトキハ其請求書(第八號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ(明治三十一年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第十一條　加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ揭クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日マテノ日數ヲ附加ス(同上)

前項ノ加入期間以後ハ每三月ヲ以テ加入期間トス

第十二條　加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書(第九號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求ヲ爲ササル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ(同上)

第十三條　加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セントスルトキハ其請求書(第三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ移轉セントスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ請求書ニ添附スヘシ(同上)

前二項ノ規定ハ加入申込ノ讓渡又ハ繼承ノ場合ニ之ヲ準用ス(明治三十一年四月遞信省令第六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第十四條　加入者自己ノ加入ヲ他人ヘ讓渡サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(第十號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ(明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條改正)

加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セントスル者ハ其相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添ヘ其請求書(第十一號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第十五條　第六條但書ニ據リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ヲ他人ニ讓渡ストキハ其許可

ヲ取消スヘシ但其既ニ設置セルモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス（明治三十一年四月遞信省令第六號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第十六條　電話加入申込又ハ加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入申込又ハ加入ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス（同上）

第三章　電話通信

第十七條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機ニ依リ左ノ通話ヲ爲スコトヲ得（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　同一電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

二　他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話

三　第十八條ニ據リ電話所ニ來リ通話スル者トノ通電但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ其通話ヲ爲シ得ル加入者相互ノ間ニ限ル（明治三十二年一月遞信省令第二號ヲ以テ本但書ヲ追加ス）

第九條第三號ノ裝置ヲ爲シタル加入者ハ私設電話機ニ依リ前項ノ通話ヲ爲スコトヲ得（明治三十五年六月遞信省令第二十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第十八條　電話所ニ來ル者ハ電話通信心得書ニ據リ同一電話交換局ニ屬スル加入者ト通話ヲ爲スコトヲ得（明治三十年十二月遞省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ加入者カ其通話ヲ爲シ得ル場合ニ限ル（明治三十二年一月遞信省令第二號ヲ以テ本但書ヲ追加ス）

第十九條　左ノ通話ハ每五分時間マテヲ以テ一通話時トス（明治三十年十二月遞信省令第三十

一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　電話所ニ來ル者ト加入者トノ通話

二　所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話

本條ノ通話ハ一通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス但他ニ通話請求者ナキトキハ此限ニ在ラス

第四章　料金

第二十條　加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ（同上）

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ加入登記料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ（同上）

第二十一條　加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第八條ニ據リ通信ヲ爲ス加入者又ハ第四條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據リ機械ヲ增設シ又ハ私設電話機ヲ接續シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ（同上ノ外同三十二年一月遞信省令第二號ヲ以テ本條ヲ改メ尙三十五年ハ省令第二十五號ヲ以テ改正スル所アリタリ）

第二十二條　加入者第十三條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

加入者特別加入區域內ニ於テ又ハ普通加入區域內ニ機械ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十三條　電話所ニ來リ通話ヲ爲ス者ハ電話料ヲ納ムヘシ（同上）

所屬電話交換局ヲ異スル加入者相互ノ通話ヲ爲シタルトキハ其請求者ヨリ電話料ヲ納ムヘシ

第二十四條　電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ一期分ヲ其期ノ初月一日ヨリ十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ（明治三十一年二月遞信省令第五號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第一期　四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期　七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期　十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期　一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十五條　加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其期ノ末日ニ至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ其加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ（明治三十年十二月遞信省令第十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第二十六條　加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納付スヘシ（同上）

加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ第四條第二項又ハ第八條第二項又ハ第九條第五號若ハ第十三條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ（明治三十二年一月遞信省令第二號ヲ以テ本項ヲ改メ尚三十五年同省令第二十五條ニテ改正ヲ爲ス）

第二十七條　電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ（明治三十一年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　電話所ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其電話所ニ前納シ二通話時以上ニ渉リタルトキハ通話ヲ終リタル後其未納料金ヲ納付スヘシ

一　加入者ハ一月分取纏メ翌月二十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第二十八條　加入登記料ハ加入申込ヲ爲ストキ電話線接續料及機械移轉料ハ電話交換局ノ指定スル期日マテニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ（同上）

第二十九條　加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話線接續料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム（同上）

第三十條　左ノ料金ハ都テ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ（明治三十一年二月遞信省令第五號ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　加入登記料

一　電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

第三十一條　加入登記料、電話線接續料及機械移轉料ハ其申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セス（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話料モ已ニ郵便切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第三十二條　加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス（同上）

特ニ指定スル長距離電話通信ノ廢止又ハ電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ增設機械ノ撤去又ハ

電話機ノ變更若ハ私設電話機接續ノ廢止ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セズ（明治三十五年六月遞信省令第二十五號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第四十條ニ據リ通話ヲ停止セラレタルトキモ亦其停止期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除セス

第三十三條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因ラスシテ電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亘ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第五章　雜則

第三十四條　加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス（同上）

第三十五條　電話交換局ハ時時吏員又ハ其所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構內ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此場合ニ於テハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶セシムヘシ（同上）

第三十六條　電話交換局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其電線機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス（同上）

第三十七條　加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因リ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構內ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第三十九條ニ違背セル所爲ニ依リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ（同上）

第三十八條　加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス（同上）

第三十九條　加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構內ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ移轉シ又ハ其裝置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但水火其他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス（同上）

加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構內ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘカラス

第四十條　加入者電話使用料、附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日マテニ納付セサルトキ又ハ第三十七條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ（同上）

第九條第三號ニ依ル加入者猥リニ其接續ヲ變更シ若ハ他ノ線條機械等ヲ連結シタルトキ及故意又ハ過失ニ因リ通話ヲ不良ナラシメタルトキハ其接續ヲ停止スルコトアルヘシ（明治三十五年遞信省令第二十五號ヲ以テ本項ヲ改ム）

第四十一條　加入者第三十八條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ據リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以內ニ滯納ノ金額ヲ納付セサルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スヘシ（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條改正）

加入者第三十九條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第二項ニ據リ一年三回以上

通話ヲ停止セラレタルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第四十二條　前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ同一ノ電話交換局ニ加入申込又ハ加入ヲ爲スヲ得ス（明治三十一年四月遞信省令第六號ヲ以テ本條改正）

第四十三條　電話交換局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其責ニ任セス（明治三十年十二月遞信省令第三十一號ヲ以テ本條ヲ改ム）

第六章　附則

第四十四條　此規則施行前ニ開通シタル電話機及電鈴ノ使用料ハ明治三十一年三月三十一日マテ尚明治二十三年遞信省令第八號同年遞信省令第十三號明治二十五年遞信省令第九號明治二十九年遞信省令第十二號及明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則第十三條ノ金額ニ據ル（同上）

第四十五條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ニ據リ加入シタル加入者ハ第十一條及第十二條ノ期限ニ拘ハラス明治三十一年三月三十一日マテニ加入取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得（同上）

第四十六條　此規則施行前ニ加入申込ヲ爲シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限リ其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ（同上）

第四十七條　明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス（同上）

（書式ハ之ヲ略ス）

電話加入區域ノ區劃變更ノ場合併合地加入區域編入ノ件

（明治三十二年六月遞信省告示第百九十三號）

明治三十年（十二月）遞信省告示第三百五十七號電話加入區域ニ關スル地ノ區劃變更ノ場合遞信省ニ於テ別ニ告示セサルトキハ之ニ併合セラレタル地ノ區劃變更ノ場合遞信省ニ於テ別ニ告示セサルトキハ之ニ併合セラレタル地ハ併合地ノ區劃ニ編入セラレタルモノトシ加入區域外ノ地ニ併合セラレタル地ハ併合地ノ區劃ニ編入セラレタル地ハ其併合セラレ又ハ普通加入區域ヨリ特別加入區域内ノ地ニ併合セラレタル地ハ其併合前ト同一加入區域内ニ在ルモノトス

電話加入者ハ普通傳話機ニ限リ當分ノ内自ラ供給スルコトヲ得ル件

（明治三十四年三月遞信省令第八號）

當分ノ内電話加入者ハ其ノ使用ニ供スル電話交換局ノ規定ヲ準用ス

電話交換業務用ノ電話通信無料ノ件

（明治三十三年九月遞信省令第七十號）

電話交換業務用ニ供スル電話加入及電話所ノ電話機ニ依ル電話電信竝電話加入區域外ノ線路ニ依ル電話交換業務用ノ電話通信ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ無料ト爲スコトヲ得

自働電話ニ關スル件（明治三十三年九月遞信省令第五十四號）

自動電話機ヲ設ケタル場所ニ於テ通話セムトスル者ハ電話料相當ノ通貨ヲ其ノ電話機ニ設備スル料金差入口ニ差入ルヘシ但シ一旦差入レタル通貨ハ何等ノ場合ト雖之ヲ還付セス

前項通貨ノ種類其他通話ニ關スル方法及制限ハ電話交換局ノ定ムル所ニ據ル

電話所電話通信時間（明治三十三年十二月遞信省告示第三百五十九號）

電話所電話通信時間左ノ通相定ム

一　三月一日ヨリ十月三十一日マテ　午前六時ヨリ午後十時マテ

一　十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ　午前七時ヨリ午後十時マテ

特設電話加入規則（明治三十五年七月遞信省令第二十九號）

特設電話加入規則左ノ通相定ム

第一條　電話交換局加入區域外ニ在ル電話所所在地及其附近ニ居住スル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ電話加入ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ニ依リ電話加入ヲ爲シ得ル電話所ハ之ヲ告示ス

第三條　電話加入ヲ爲サントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ遞信大臣ニ願出ツヘシ

一　電話機設置場所

二　電話所ト電話機設置場所トノ距離及略圖

三　長距離加入ヲ爲サントスルモノハ其旨

第四條　加入申込者ハ主務官署ノ指定スル所ニ依リ通話ニ必要ナル一切ノ設備及維持ヲ負擔スヘシ但電話所內ニ屬スルモノハ此限ニアラス

第五條　明治三十三年（九月）遞信省令第四十八號私設電信規則第十二條第一項第十三條乃至第十九條及第三十一條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第六條　加入申込者第三條ノ認可ヲ受ケタルトキハ六箇月內ニ工事ニ著手スヘシ若シ其期間ニ著手セサルトキハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　前條ノ工事落成シタルトキハ加入申込者ハ其旨直チニ電話所所屬ノ電話交換局ニ屆出ツヘシ

第八條　加入者ハ其使用ノ電話機ニ依リ電話線ノ接續アル他ノ加入者及電話所ト通話ヲ爲スコトヲ得但長距離通話ハ其認可ヲ受ケタル加入者ニ限ル

第九條　加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

第十條　加入者ハ一通話毎ニ明治三十年（十二月）遞信省令第三十二號ニ定ムル所ノ電話料ヲ納ムヘシ但同一電話所ニ屬スル加入者相互間ノ通話ハ此限ニアラス

第十一條　加入者ノ使用スル電話機ハ一加入毎ニ一箇トス若シ電話機ヲ增設セントスルトキハ所屬電話交換局長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　加入者ハ一加入毎ニ電話交換料ヲ納ムヘシ

第十三條　加入登記料及電話交換料ハ別ニ告示ス

第十四條　電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亙ルトキハ其日數ニ應スル電話交換料ヲ徴收セス既ニ納付シタルトキハ加入者ノ請求ニヨリ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ還付スヘシ但其不通カ加入者ノ負擔ニ屬スル線路及機械等ニ原因スル場合ハ此限ニアラス

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第十五條　加入者ニシテ主務官署ノ指揮命令ニ從ハサルモノアルトキハ其加入ヲ取消スコトアルヘシ

第十六條　本令ノ認可ハ加入者所在地ニ明治三十年(十二月　遞信省令第三十一號電話交換局規則ニ依ル電話交換ヲ開始スルトキハ其效力ヲ失フ但其失效ノ期日ハ六箇月前ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一般ノ電話交換ニ繼續加入セントスル者ハ其通知ヲ受クタル日ヨリ三箇月內ニ更ニ願出ツヘシ

第十七條　加入者ノ所在地又ハ其附近ニ新ニ電話所ヲ設置シタルトキハ其電話所電話線路ノ接續換ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ三箇月前ニ之ヲ加入者ニ通知スヘシ

第四條ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第十八條　加入者電話機設置場所ヲ變更セントスルトキハ其電話所々屬ノ電話交換局ニ願出テ認可ヲ受クヘシ新ニ長距離通話ヲ爲サントスル加入者亦同シ

第十九條　明治三十年(十二月)遞信省令第三十一號電話交換規則第三條第三項第十條乃至第十二條第十四條第十六條第十九條第二十四條乃至第二十八條第三十一條第三十二條第三十五條第三十八條及第四十條乃至第四十三條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第二十條　本令ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其電話所所屬ノ電話交換局ヲ經由スヘシ

毎年一定ノ期年ヲ定メ電話交換ノ取扱ヲ爲スヘキ電話所ニ屬スル加入者期間及電話交換料

(明治三十五年七月遞信省令第三十三號)

毎年一定ノ期間ヲ定メ明治三十五年(七月)遞信省令第二十九號特設電話加入規則ニ依リ電話交換ノ取扱ヲ爲スヘキ電話所ニ屬スル加入者ノ加入期間及電話交換料左ノ通相定ム

一　加入期間ハ毎年其電話所ノ電話交換取扱期間ヲ以テ毎一期トス

二　毎一期ノ電話交換料ハ一箇月金三圓ノ割合ヲ以テ其期ノ料金額ヲ定ム若シ其期間中一月ニ滿タサルモノアルトキハ其月ノ現日數ニ應シ日割ヲ以テ計算ス一期ノ中途ヨリ加入シタル場合亦同シ

電話呼出規程

(明治三十三年八月遞信省令第四十號)

電話呼出規程左ノ通相定メ明治三十三年九月十一日ヨリ施行ス

電話呼出規程

第一條　電話加入者及特設電話加入者ハ別ニ指定スル地域內ニ居住スル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル爲メ所屬電話局所ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得(明治三十五年九月遞信省令第四十三號

ヲ以テ本項ヲ改ム）

第二條　前條ノ請求ヲ爲ス者ハ電話呼出料及一通話時ノ電話料ヲ納ムヘシ

電話所ニ來ルモノハ前項ノ料金ヲ其ノ電話所ニ前納シ電話加入者及特設電話加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ電話交換局又ハ電話交換支局ニ納ムヘシ但シ電話加入者ハ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ納付スヘシ（同上）

第三條　電話呼出料及電話料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　電話呼出ノ請求アルトキハ其ノ呼出地域内ニ在ル電話所ニ於テ呼出通話券ニ左ノ事項ヲ記入シ電話料前納證書トシテ之ヲ被呼者ニ交付スヘシ

一　電話料前納ノ金額

二　被呼者ノ居所及氏名

三　請求者ノ氏名及請求ヲ爲シタル加入者又ハ請求ヲ受ケタル電話所ノ所屬電話交換局若ハ電話交換局名竝電話番號

四　通話ヲ爲ス者ノ氏名（同上法令ヲ以テ本號ヲ追加シ以下順次繰下ク）

五　被呼者ノ電話所ニ來ルヘキ時間ノ指定アルトキハ其ノ時間

六　證書ノ發行所名及發行年月日

第五條　電話料前納證書ヲ受領シタル者ハ其ノ證書記載ノ金額ニ相當スル電話料納付濟ノモノトシ何レノ電話所ニ於テモ呼出通話券ヲ以テ通話スルコトヲ得

第六條　呼出通話券ヲ以テ通話スル者ハ其ノ一通話時ノ電話料ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ呼出通話券ニ貼付シ差出スヘシ若ニ通話時以上ニ

渉リ電話料ニ不足ヲ生シタルトキハ通話ヲ終リタル後其ノ不足額ニ相當スル郵便切手ヲ納ムヘシ

第七條　電話料前納證書ノ使用期限ハ發行ノ日ヨリ七日以内トス此ノ期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第八條　第二條ニ依リ電話所ニ來ル者ノ前納シタル電話呼出料及電話料ハ其ノ請求ヲ取消シ又ハ其ノルモノハ之ヲ還付セス

第九條　第二條ニ依リ電話加入者ノ納ムヘキ電話呼出料及電話料ハ其ノ請求ヲ取消シ又ハ其ノ請求ニ對シ發行シタル呼出通話券不用ニ屬シタルトキト雖之ヲ納付スヘシ

第十條　居所不分明其ノ他ノ事故ニ依リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ居所氏名ヲ記載シテ三日ヨリ少カラサル間之ヲ著信電話所前ニ掲示スヘシ

第十一條　被呼者ニ交付スルコト能ハサル電話料前納證書ハ發行ノ日ヨリ七日同之ヲ著信電話所ニ留置クヘシ此ノ期限内ハ被呼者ヨリ其ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　呼出請求者ハ被呼者ノ居所氏名又ハ呼出時間ニ改正ヲ要スルトキハ呼出請求ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ其ノ請求局所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ改正ヲ請求スル者ハ第二條第二項ノ例ニ依リ電話呼出料ヲ納ムヘシ

第十三條　左記各號ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム）

一　電話局所ノ過失ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付セサルトキハ其ノ電話料及電話呼出料

二　電話局所ノ過失ニ因リ徴收シタル電話料及電話呼出料

三　居所不分明其ノ他ノ事故ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキ及其ノ使用期間中ニ使用セサリシトキノ電話料

前項料金還付ノ請求ハ呼出ノ請求ヲ爲シタル加入者又ハ電話所所屬ノ電話交換局又ハ電話交換支局ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期限ハ料金納付ノ日ヨリ三十日トス但シ被呼者ノ受領シタル電話料前納證書ハ之ヲ請求書ニ添付スヘシ

第十四條　明治三十年(十二月)遞信省令第三十一號電話交換規則第四十條乃至第四十二條ノ規定ハ本規程ニ依リ加入者ノ納ムヘキ料金滯納ノ場合ニモ之ヲ準用ス

電話呼出請求時限

明治三十三年(八月)遞信省令第四十號電話呼出規定第一條ノ請求ハ明治三十年(十二月)遞信省告示第三百五十九號電話所電話通信時間ニ限ル

(參照)　明治三十年遞信省告示第三百五十九號電話所電話通信時限ハ三月一日乃至十月三十一日午前六時ヨリ午後十時マテ十一月一日乃至二月末日午前七時ヨリ午後十時マテナリ

第六類　勸業

第一篇　博覽會

內國勸業博覽會開期ノ件

(明治十年十二月第八十八號布告)

內國勸業博覽會ノ儀ハ明治十年ヲ以テ第一回トシ爾後五箇年目毎(明治十四年ヲ以テ第二回トス)ニ被開候條此旨布告候事

但本會開設ノ場所及ヒ日限諸規則等ハ三箇年前ニ布告スヘキ事

內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌爲ヲ製品其他ヘ付スルハ不苦

(明治十一年四月內務省甲第九號布達)

明治十年內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ハ受領人ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ寫ヲ製造ノ物品又ハ其外ト包ミ或ハ看板廣告等ノ類ヘ相付候儀ハ不苦候條此旨爲心得布達候事

內外博覽會授與ノ褒證ヲ失ヒタル者ヘ證明證付與方

(明治十七年十二月農商務省告示第二號)

內外博覽會及ヒ共進會ニ於テ授與ノ褒證水火盜難ニ罹リ失ヒタル者アリ請求候節ハ證明狀附與可致候條右等事故有之候ハヽ管轄廳ヘ願出ヘシ管轄廳ニ於テハ其ノ失ヒタル事由及ヒ年月日ヲ

取調當省ヘ具申致スヘシ
但官廳出品ニ係ル分モ本文ニ準ス

第二篇　農事

農會法（明治三十二年六月法律第百三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル農會法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農會法

第一條　農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス

第二條　農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第四條　農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

第六條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

農會令（明治三十三年二月勅令第三十號）

朕農會令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

農會令

第一條　農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス

本令ニ依リテ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ揭ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第一條ノ二　農會ハ法人トス

農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス（明治三十五年三月勅令第百二十九號ヲ以テ本條ヲ置ク）

第二條　市町村農會ノ區域ハ市町村又ハ町村組合ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル

町村農會ニ在リテハ特別ノ事由アルトキハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ノ認可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第三條　市町村農會ハ其ノ區域內ニ於テ耕地又ハ牧場ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域內ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域內ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　會員ノ數第三條ノ資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ナルコト

二　其ノ區域內ニ於テ會員ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積ノ二分ノ一以上タルコト

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第五條　郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域內ノ町村及町村組合總數ノ二分

ノ一以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域內ノ郡市總數ノ二分一以上タルコトヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六條　北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ニ加入セサルモノニ對シ之カ加入ヲ命スルコトヲ得但シ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱

二　事業

三　事務所

四　役員ノ職務權限、選任及任期ニ關スル規定

五　會議ニ關スル規定

六　會費ノ分賦收入ニ關スル規定

七　財產ニ關スル規定

八　處務及會計ニ關スル規定

九　入會及退會ニ關スル規定

十　會則ノ變更ニ關スル規定

十一　解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第九條　郡農會、北海道農會又ハ府縣農會ヲ設立シタルトキハ之カ會議ニ參列セシムル爲其ノ農會ヲ組織スル農會ニ於テ三名以內ノ代表者ヲ選擧スヘシ

第十條　農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得

名譽會員ハ議決權ヲ有セス

第十一條　農會ハ會長及副會長各一名ヲ置クヘシ

會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス

副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十二條　會長及副會長ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ其ノ他ノ農會ニ在リテハ第九條ノ代表者中ヨリ之ヲ互選ス但シ名譽會員ヲ選擧スルコトヲ妨ケス

第十三條　農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

第十四條　農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十五條　農會ノ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ハ每年之ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　農會ハ每年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第十七條　農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作リ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十八條　農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第十九條　行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ會務ノ狀況若ハ帳簿ヲ檢査シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ行フコトヲ得

第二十條　農會ノ決議又ハ其役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解職

三　事業ノ停止

四　解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ス

第二十一條　農會ニ於テ解散ヲ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ニ於テ六箇月以內ニ再ヒ之ヲ具備スルニ至ラサルトキハ解散ス

第二十二條ノ二　第二條第二項ノ認可ヲ經テ設立シタル農會ニシテ特別ノ事由消滅シタルトキハ郡長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ（同上法令ヲ以テ本條ヲ新設シ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス）

農會ハ前項ノ取消ニ因リテ解散ス

第一項ノ場合ニ於テハ郡長ハ遽メ其ノ農會ノ會長及ヒ副會長ノ意見ヲ聽キ清算及財產處分ヲ爲スヘシ

第二十二條ノ三　前條ノ規定ニ依リテ解散シタル農會ノ會員ハ解散ト同時ニ各其ノ所屬町村ノ區域ニ依リテ農會ヲ設立シタルモノト看做ス但シ第四條ノ條件ヲ具備セサルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ假ニ會則ヲ定メ假役員ヲ選任シテ役員ノ選任アル迄會務ヲ處理セシムヘシ

第二十二條ノ四　前條ニ依リテ設立シタル農會ハ會則ヲ議決シ設立ノ時ヨリ二箇月以內ニ郡長ノ認可ヲ申請スヘシ（同上）

第二十二條ノ五　農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス（同上）

第二十二條ノ六　農會解散シタルトキハ會長及副會長其ノ清算人ト爲ル但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ決議ヲ以テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第二十二條ノ七　清算人ハ清算及財產處分ノ方法ヲ定メテ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ（同上）

清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十二條ノ八　行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算及財產處分方法ノ變更又ハ清算人ノ解

職ヲ命スルコトヲ得(同上)

第二十二條ノ九　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ農會ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ行政廳ニ願出ツヘシ(同上)

第二十三條　第七條、第八條第二項、第十五條、第十六條、第二十一條、第二十二條ノ六第二項第二十二條ノ七第一項、第二十二條ノ八、第二十二條ノ九及第二十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長トシ市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官トシ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス(同上法令ヲ以テ本條ヲ改ム)

附　則

第二十四條　本令ハ農會施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條　本令中郡ト稱スルハ北海道沖繩縣ノ區町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス

本令ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第二十六條　本令施行前ニ設立シタル農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ具ヘサル他本令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ行政廳ノ認可ヲ受ケ本令ニ依リテ設立シタル農會ト看做スコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請シタル農會ニシテ第一條ニ掲ケタル名稱ヲ有スルモノハ其ノ認可アル迄仍從前ノ名稱ヲ繼續スルコトヲ得

農會令施行規則

（明治三十三年三月農商務省令第三號）

農會令施行規則左ノ通相定ム

農會令施行規則

第一條　農會設立ノ認可申請書ニハ農會令第四條又ハ第五條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條　役員ノ選任又ハ變更アリタルトキハ遲滯ナク其氏名ヲ行政廳ニ屆出ヘシ

第三條　農會設立ノ認可アリタルトキハ遲滯ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其旨ヲ報告スヘシ

第五條　地方長官農會令第二十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ直チニ其事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條　農會令第二十六條第一項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其申請書ニ會則及經費ノ豫算竝分賦收入ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七條　農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條　本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農會ニ於テ農事ニ關スル事項調査ノ件

（明治三十五年十二月農商務省令第二十六號）

農會ニ於テ農事ニ關スル事項調査ノ件左ノ通相定ム

第一條　農會ハ毎年其ノ區域內ニ於ケル左ノ事項ヲ調査シ地方長官ニ於テ告示スル樣式ニ依リ報告書ヲ作成スヘシ

一　米(水稻、陸稻)麥(大麥、小麥、裸麥)ノ作付段別及收穫高

二　一毛作田地及二毛以上作田地ノ段別(主タル裏作トシテ紫雲英、苜蓿等ノ綠肥ヲ作付スルモノハ二毛以上作中ニ區別スヘシ)

三　牛馬耕ヲ爲ス田畑及爲ササル田畑ノ各區別

四　自作田畑及小作田畑ノ各區別

五　耕作用牛馬ノ頭數

六　總戶數及專業並兼業各農家(耕作ニ從事セサル地主ヲ除ク)ノ戶數

七　農業ニ關スル教育ヲ受ケタル者(農學校、農事講習所又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ講習ヲ受ケタル者)ノ現在數

ル者及農事講習會又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ講習ヲ受ケタル者)ノ現在數

前項第一號乃至第三號ハ每年ノ事實、第四號乃至第七號ハ每年末ノ事實ヲ調査スヘシ

第二條　町村農會ハ前條ノ報告書ヲ郡(島ヲ含ム以下倣之)農會ニ、郡農會ノ設立ナキ地方ニ於ケル町村農會ハ道府縣農會ニ差出スヘシ

郡農會ハ其ノ區域內ニ農會ノ設立ナキ町村アルトキハ自ラ前條ノ調査ヲ爲シ町村農會ノ報告書ト共ニ總括シテ報告書ヲ作成シ之ヲ道府縣農會ニ差出スヘシ

道府縣農會ハ其ノ區域內ニ農會ノ設立ナキ市郡アルトキハ自ラ前條ノ調査ヲ爲シ市農會及郡農會ノ報告書ト共ニ總括シテ報告書ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ報告書ヲ差出スヘキ期限ハ町村農會ニ在リテハ調査ヲ爲シタル年ノ翌年一月末日、市農會及郡農會ニ在リテハ二月末日、道府縣農會ニ在リテハ三月末日トス

附則

第四條　本令ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ニ關スル件

(明治三十三年六月農商務省令第十二號)

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　北海道ニ於テ郡農會ヲ設立スルニハ其區域內ニ於ケル町村總數ノ三分ノ一以上ノ町村ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

第二條　北海道農會ヲ設立スルニハ北海道ニ於ケル郡總數ノ三分ノ一以上ノ郡ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

農會補助金交付規則

(明治三十三年三月農商務省令第二號)

農會補助金交付規則左ノ通相定ム

農會補助金交付規則

第一條　明治三十二年法律第百三號農會法ニ規定セル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　補助金ハ北海道農會及七府縣農會ニ之ヲ交付ス但正當ノ理由ニ因リ北海道農會若ハ府

縣農會ヲ組織セス又ハ之ニ加入セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケタル北海道農會又ハ府縣農會ハ必要ナリト認ムルトキハ其農會ヲ組織スル郡農會ニ補助金ヲ支給スルコトヲ得

第四條　農會カ補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ三月五日マテニ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス（明治三十五年十一月農商務省令第二十一號ヲ以テ本項ヲ改メ尚ホ本條ニ存セシ第二項ヲ削ル）

一　補助ヲ受ケントスル年度ノ事業方法書

二　財産目錄

三　（同上法令ヲ以テ本號ヲ削ル）

四　申請ノ理由ヲ記載シタル書面

五　北海道農會及ヒ府縣農會ニ在リテハ其農會ヲ組織スル郡農會ノ收支豫算書郡農會ニ在リテハ其農會ノ收支豫算書（同上法令ニテ本號ヲ改ム）

第五條　補助金ハ月割ヲ以テ計算シ毎年四月及ヒ十月ニ各半年分ヲ交付ス

第六條　補助金ノ交付ヲ受ケタル農會ハ前年度ノ經費ノ決算及ヒ會務ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ調製シ六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條　農會カ其事業ヲ停止シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得

第八條　農會カ解散シタルトキハ農商務大臣ハ既ニ交付シタル補助金ヲ還納セシムルコトヲ得

附則

第九條　本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　明治三十三年度ノ補助金ハ第四條ノ申請期限及ヒ第五條ノ交付期月ニ拘ハラス之ヲ交付ス

肥料取締法

（明治三十二年四月法律第九十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル肥料取締法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

肥料取締法

第一條　此ノ法律ニ於テ肥料ト稱スルハ農產物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ

第二條　肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ地方長官（東京府ハ警視總監）ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　地方長官（東京府ハ警視總監）ハ何時タリトモ官吏ヲ派シテ肥料ノ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ニ依リ臨檢ヲ爲ス官吏ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　肥料ノ製造販賣者又ハ販賣者ハ前條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ檢查ノ爲必要ナル肥料ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第五條　第二條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第四條ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　肥料ヲ僞造者ハ他ノ物料ヲ混和シテ販賣シタル者ハ十五日以

上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ肥料ハ沒收ス

第八條　第四條ニ違犯シ又ハ第七條ノ刑ニ處セラレタル者ハ行政廳ニ於テ其營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條　此ノ法律施行ノ爲必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附　則

第十條　此ノ法律施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十四年五月勅令第百十一號ヲ以テ本條ノ施行期日ヲ明治三十四年十二月一日ト定ム）

肥料取締法施行規則

（明治三十四年五月農商務省令第五號）

肥料取締法施行規則左ノ通相定ム

肥料取締法施行規則

第一條　肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官（東京府ハ警視總監以下倣之）ニ差出スヘシ

一　製造場及ヒ販賣所ノ位置

二　肥料ノ名稱

三　原料ノ種類

四　肥料ノ製造方法

肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其認可ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ十日以內ニ其旨ヲ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三條　左ノ肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ニ肥料ノ名稱、肥料百分中ノ主成分量及ヒ自己ノ氏名、住所ヲ記載シテ之ヲ肥料ノ各容器又ハ各箇ニ附スヘシ

一　過燐酸石灰、重過燐酸石灰、沈澱燐酸石灰、硝酸鹽類、「アンモニヤ」鹽類、加里鹽類其他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料

二　骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、血粉、「トーマス」燐肥其他特ニ粉碎シタル肥料

三　菜種油糟及ヒ綿實油糟

四　前各號ノ肥料ヲ調合シ又ハ之ヲ以テ主タル材料トシタル肥料

前項ノ規定ハ容器ヲ變更又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ

主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及硝酸性又ハ「アンモニヤ」性窒素ノ量トシ燐酸ニ在リテハ全燐酸水ニ溶解スル燐酸及ヒ枸櫞酸「アンモニヤ」ニ溶解スル燐酸ノ量トス

第四條　前條第一項ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得

第五條　製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓渡ス毎ニ其名稱、數量及ヒ知レタル相手方ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

第六條　製造販賣又ハ輸入販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日マテニ前年中ニ販賣シタル肥料ノ種類別ノ數量及ヒ價格ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第七條　檢查ノ爲メ必要ナル肥料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者之ヲ爲スヘシ

採取シタル肥料ハ二分シテ之ヲ各別ノ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ立合人之ニ記名封印スヘシ

第八條　檢查ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫目以下トス

第九條　肥料ノ檢查ニ從事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ檢查スルコトヲ得

第十條　第一條第三項、第三條、第五條若クハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ檢查ヲ拒ミタル者ハ三圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

地方長官第四條ニ依リ保證票ヲ附スヘキ肥料ヲ指定シタル場合ニ於テ保證票ヲ附セスシテ之ヲ販賣シタル者亦同シ

附　則

第十一條　本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ

害蟲驅除豫防法

（明治二十九年三月法律第十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル害蟲驅除豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

害蟲驅除豫防法

第一條　此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條　驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得但此場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ナシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ナシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及市町村制第百二條ヲ適用ス

第四條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條　府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ標準ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二條ヲ適用セス

第六條　府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈刈秣、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第七條　驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條　土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入リ驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得(明治三十五年二月法律第九號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第十條　蟲類以外ノ動物黴菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得(同上)

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其指揮ヲ受クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條　本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區間切及市町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準ス(同上)

第十四條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

同　取扱手續

(明治二十九年三月農商務省訓令第六號)

害蟲驅除豫防法取扱手續左ノ通相定ム

害蟲驅除豫防法取扱手續

第一條　害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱、方言

二　主ナル被害農作物ノ種類

三　驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條　害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ(明治三十二年農商務省訓令第八號ヲ以テ本條ヲ改ム)

第三條　害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條　害蟲隣接府縣ニ蔓延セムトスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條　二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ驅除豫防ノ方法ヲ施設シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第二項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條　害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付本大臣ノ認可ヲ

請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條　害蟲發生シタルトキハ直ニ其旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條　害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一　害蟲ノ種類

二　郡市町村名

三　被害農作物ノ種類及被害見積反別

四　被害ノ狀況

第九條　每年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

（表式ハ之ヲ略ス）

第三篇　狩獵

狩獵法改正

（明治三十四年四月法律第三十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

狩獵法

第一章　狩具、獵法

第一條　本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、羂繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條　曝發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル裝置ヲ爲シタル罠若ハ陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第二條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條　日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　御獵場

二　禁獵區

三　公道

四　公園

五　社寺境內

六　墓地

第五條　棚、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有者、他人ノ共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　地方長官ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十箇年以內ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條　地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得

第二章　狩獵免許

第八條　狩獵ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ欄、柵又ハ圍障アル宅地內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　從來地方ノ慣行ニ依ル一定ノ區域內ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　免許ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第十一條　免狀ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等　所得稅百圓以上、地租五百圓以上若ハ營業稅百五十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　金二十圓

二等　所得稅三圓以上、地租三十圓以上若ハ營業稅二十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族　金十圓

三等　一等、二等以外ノ者　金二圓

第十二條　免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

前項期間內ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條　獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢查スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ他ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十六條　未成年者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條　免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十八條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之カ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

第三章　鳥獸保護

第十九條　保護鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ保護期間前ニ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ期間ノ初日ヨリ二週間以內ニ於テ賣買スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣ニ於テ賣買スルコトヲ得

保護鳥獸ノ種類及保護期間ハ農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ賣買スルコトヲ得

第二十條　保護鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ學術研究ノ爲之カ採取ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第四章　罰　則

第二十一條　第八條第一項、第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀若ハ共同狩獵地ノ免狀ヲ受ケ又ハ詐テ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

第二十二條　第三條第一項、第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰前條ニ同シ

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十三條　第五條、第十四條第三項、第十九條第一項、第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第五條ニ付テハ土地所有者、占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十四條　第十四條第二項、第十五條第一項、第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第二十五條　本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同狩獵地ハ本法施行後ト雖其ノ免許期間仍從前ノ規定ヲ適用ス

第二十七條　本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第二十八條　本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行後仍其ノ罰則ヲ適用ス

第二十九條　明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條　本法中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本法中市町村長ノ職務ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ該當スヘキ者之ヲ行フ

狩獵法施行規則

（明治三十四年六月農商務省令第七號）

狩獵法施行規則左ノ通改正シ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

狩獵法施行規則

第一條　狩獵法第一條ノ網トハ羅網、覆網其他ノ張網ヲ謂ヒ綱細トハ漉シ綱、張綱細ヲ謂ヒ撓トハ高撓千本撓ヲ謂フ

第二條　狩獵免狀ヲ受ケントスル者ハ願書ニ免狀ノ種類、等級及ヒ身分、職業、氏名、住所年齡ヲ記載シ且狩獵法第二十二條又ハ明治二十八年法律第三十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

前項ノ願書ニハ狩獵法第十一條ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ（但一等免狀ヲ受ケントスル者ハ此限ニ在ラス（明治三十四年十月農商務省令第九號ヲ以テ本但書ヲ追加ス）

第三條　狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スル場合ニ於テ納付スヘキ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

收入印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第四條　狩獵免狀ヲ受ケタル者其氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ三週間內ニ其旨ヲ

地方長官ニ届出ヘシ身分ニ異動アリタルトキハ亦同シ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免狀ノ種類等級及ヒ身分、職業、氏名、住所、年齢ヲ記載シタル書面ヲ其地方長官ニ差出スヘシ

第五條　地方長官ハ其下付スヘキ免狀用紙ノ概數ヲ毎年七月十五日限リ農商務大臣ニ申告スヘシ

第六條　地方長官ハ免狀原簿ヲ備ヘ置キ之ニ免狀ノ種類、等級、番號及ヒ獵者ノ身分、職業、氏名、住所、年齢ヲ登錄スヘシ

第七條　獵者其免狀ヲ喪失シタルトキハ直ヲニ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ地方長官ニ差出スヘシ此場合ニ於テハ地方長官ハ其旨ヲ公告スヘシ

第八條　地方長官ハ第一號樣式ニ依リ免狀統計表ヲ調製シ毎年十二月十五日マテニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條　地方長官狩獵法第六條ノ規定ニ依リ禁獵區ヲ設ケタルトキハ其禁獵ノ期間、理由及ヒ時期ヲ記載シタル書面ニ圖面ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其理由ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ區域ヲ變更シタル場合ニ於テハ其變更ノ區分ヲ示ス圖面ヲ添附スヘシ

第十條　土地所有者禁獵區ノ設置ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其禁獵ノ期間理由及ヒ時期ヲ記載シ圖面ヲ添附シテ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前條第二項ノ規定ハ土地所有者出願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　前二條ノ場合ニ於テ禁獵區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ禁獵ノ區域期間及ヒ時期ヲ公告スヘシ

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其旨ヲ公告スヘシ

第十二條　地方長官鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲メ禁獵區ヲ設ケタルトキハ毎年九月三十日マテニ其禁獵區ニ於ケル鳥獸蕃殖ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ其免許ヲ受ケントスル期間ヲ記載シ圖面及ヒ共同狩獵ノ慣行ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

免許ノ繼續ヲ出願セントスル場合ニ於テハ前項ノ圖面及ヒ書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第十四條　共同狩獵地ノ區域ヲ變更セントスルトキハ願書ニ其變更ノ區分ヲ示ス圖面及變更ノ理由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十五條　共同狩獵地ト爲サントスル土地ノ全部又ハ一部カ官有地ナルトキ又ハ他人ノ所有地ナルトキハ願書ニ主務官廳ノ許可書又ハ所有者ノ承諾書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十六條　地方長官ハ第十三條又ハ第十四條ノ願書ニ狩獵ノ慣行ニ關スル意見ヲ附スヘシ

第十七條　免許期間内ニ共同狩獵地ヲ廢止シタルトキハ地方長官ヲ經由シ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十八條　農商務大臣公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ共同狩獵地ノ免許ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第十九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年五月十五日マテニ地方長官ヲ經由シテ各狩獵期間中ニ捕獲シタル鳥獸ノ種類數及ヒ狩獵ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲メ六十間ヲ超エサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ其周圍ニ木標ヲ建設スヘシ

土地所有者ノ出願ニ因リ禁獵區ヲ設ケタル場合ニ於テハ出願者ヲシテ木標設置ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

木標ニハ其四面ニ雛形ニ掲ケタル事項ノ外禁獵區ノ方位ヲ示シ且禁獵ノ時期ヲ定メタルトキハ其時間ヲ記載スヘシ

第二十一條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ハ所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケ前條ノ規定ニ準シテ木標ヲ建設スヘシ

前項ノ規定ハ狩獵法第二十六條ノ獵區及共同狩獵地ニ之ヲ準用ス

第二十二條 地方長官狩獵法第七條ノ規定ニ依リ銃獵ヲ禁シタルトキハ其場所ニ制札ヲ建設スヘシ

第二十三條 地方長官カ狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ鳥獸ノ捕獲又ハ保護鳥類ノ卵若クハ雛ノ採取ヲ許可セシトスルトキハ豫メ其捕獲又ハ採取スヘキ鳥獸又ハ卵雛ノ種類、數及ヒ捕獲採取ノ期限並ニ區域ヲ指定スヘシ

前項ノ期間ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條 法人其他ノ團體ニ於テ狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ許可ヲ受ケントスルトキハ願書ニ鳥獸又ハ卵雛ノ捕獲又ハ採取ニ從事スル者ヲ指定スヘシ

第二十五條 狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸又ハ卵雛ノ捕獲又ハ採取ニ從事スルトキハ其許可證ヲ攜帶スヘシ

第二十六條 狩獵法第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ鳥獸又ハ卵雛ヲ捕獲又ハ採取シタルトキハ指定期間内ニ其ノ種類及ヒ數ヲ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ニ基キ第二號又ハ第三號樣式ニ依リ前半年間ノ鳥獸捕獲表又ハ卵雛採取表ヲ調製シ毎年一月及ヒ七月之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十七條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁ス

一鵐　一燕(岩燕ヲ除ク)　一小雀　一日雀　一四十雀

一五十雀　一柄長　一菊戴　一雪加　一蟲喰

一瑠璃　一鶲　一三光鳥　一鶺鴒　一鷦鷯

一杜鵑　一郭公　一蚊母鳥　一鵂鶹　一鴞

一鳶　一鷲

第二十八條 左ニ掲クル鳥類ハ三月一日ヨリ十月三十一日マテ捕獲スルコトヲ禁ス

一雉　一鸐雉

第二十九條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ十月十四日マテ(北海道ニ於テハ九月十四日マテ)捕獲スルコトヲ禁ス

一鵯　一椋鳥　一雲雀　一鵙　一雷鳥

一鶉　一松鷄　一鳩(鴿ヲ除ク)　一鷸

第三十條 農商務大臣ニ於テ前三條ニ掲ケサル鳥獸ノ保護ヲ必要ト認ムルトキハ其鳥獸ノ名

稱保護期間及ヒ區域ヲ告示スヘシ

第三十一條　狩獵法第十九條第一項但書ノ規定ニ依リ保護鳥獸ヲ賣買セントスル者ハ保護期間ノ初日マテニ其賣買セントスル鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ鳥獸ヲ賣買シタルトキハ保護期間ノ初日ヨリ十五日内ニ其名稱及ヒ數ヲ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三十二條　保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ保護期間ノ初日ヨリ二週間經過シタル翌日ニ於ケル現在ノ鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ十五日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ鳥獸ノ數ニシテ異動ヲ生シタルトキハ十五日内ニ其年月日及ヒ事由ヲ所轄警察署ニ届出ヘシ

第三十三條　飼養ニ係ル保護鳥獸ヲ賣買シタルトキハ賣渡人ニ於テ十五日内ニ買受人ノ氏名、住所、賣渡ノ年月日及鳥獸ノ名稱、數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十四條　第二十條、第二十一條ノ木標若クハ第二十二條ノ制札ヲ毀棄汚損シタル者又ハ第二十五條、第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

（書式ハ之ヲ略ス）

狩獵免許稅徵收ニ關スル件

（明治三十年三月法律第七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル狩獵免許稅徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第四篇　漁　業

漁業法

（明治三十四年四月法律第三十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル漁業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

漁業法

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條　私有水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ヲ專用セムトスル場合ヲ除クノ外從來ノ慣行アルニ非サレハ之ヲ與ヘス

第五條　漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ漁業ノ種類ヲ限定

シテ免許ヲ與フルコトヲ得

從來ノ慣行ニ因リ前條ノ免許ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ其ノ慣行ニ因リ漁場ノ區域及漁業ノ種類ヲ定メ之ヲ免許ス

第六條　漁業免許ノ期間ハ二十箇年以內トス但シ第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ免許期間ニ算入セス

免許期間ハ免許ヲ受ケタル者ノ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條　漁業權ハ相續、讓渡、共有及貸付ノ目的ト爲スコトヲ得但シ地先水面專用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第八條　漁業權ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年漁業ニ從事スル者ナキトキハ行政官廳ニ於テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得引續キ二箇年間休業シタルトキ亦同シ但シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ休業シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ前項ノ期間ニ算入セス

第九條　行政官廳ハ水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業免許ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スルコトヲ得

漁業者ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　漁場ノ區域又ハ方位ヲ標示スル爲標識ヲ建設セムトスル者ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第十二條　第十條ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スル爲生シタル損失ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ補償スヘシ

第十三條　地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一　水產動植物ノ採捕者ハ販賣ニ關スル制限又ハ禁止

一　漁具、漁船若ハ採捕ノ方法ニ關スル制限又ハ禁止

一　漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限

一　水產動植物ニ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ一定ノ區域內ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第十五條　前條第二項ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條　行政官廳ハ水產動植物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水面ニ通スル私有水面ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　漁業ニ從事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　一定ノ區域內ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業組合ヲ設置スルヲ得

漁業組合ノ地區ハ浦、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ

前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ區域內ニ於テ其ノ地區ヲ定ムルコトヲ得

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第十九條　漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ノ免許ヲ受ケタルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ漁業ヲ爲サシムヘシ

第二十一條　漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十二條　漁業者又ハ水產動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他水產業ニ關シ共同ニ利益ヲ圖ル爲水產組合ヲ設置スルコトヲ得

水產組合ニ關シテハ重要物產同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ主務大臣之ヲ行フ

第二十三條　漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル者又ハ第八條、第九條若ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　漁業免許ノ違法許可若ハ其ノ更新ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルニトヲ得

第二十五條　漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條　免許ニ依ラスシテ免許ヲ受ケヘキ漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ問ハス漁具ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第二十七條　使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト看做シ前條ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

第二十八條　第三條第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ被害者ノ告訴ニ因リ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　明治三十三年法律第五十二號ノ規程ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ適用ス

附　則

第三十一條　本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　本法ノ規定ハ朧虎臘肭獸獵法ノ效力ヲ妨ケス

第三十三條　本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有水面使用免許ニ依ル第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ免許期ハ第六條ノ期間內ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

第三十四條　從來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以內ニ出願スルトキハ之ニ免許ヲ與フヘシ

前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ本法施行後一箇年間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スルコトヲ得

第三十五條　本法施行前ニ於テ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他水產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水產組合ト看做ス

（明治三十五年五月農商務省令第七號）

同施行規則

漁業法施行規則左ノ通相定ム

漁業法施行規則

第一章　總則

第一條　本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ漁業法第三條第二項ニ依リ主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ定置漁業ト區劃漁業及特別漁業ニ非スシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條　定置漁業ノ種類左ノ如シ

一　敷網（又ハ垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ（聖網類漁業）

二　落網（オトシ）、上網（ノボリ）及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ（落網類漁業）

三　側網（カワ）及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ（枡網類漁業）

四　曲網（マシ）及垣網又ハ刺網（サシ）ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ（建網類漁業）

五　垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ（出網（ダシ）類漁業）

六　張網又ハ立囘網（タテマワシ）ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ（張網類漁業）

七　一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石垣等ヲ建設シテ陷穽（エリヤナ）ノ裝置者ハ魚堰ヲ設クルモノ（魞簀類漁業）

第三條　區劃漁業ノ種類左ノ如シ

一　一定ノ區域內ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ鎭（ヒビ）ヲ建設シテ爲ス養殖業（第一種）

二　土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域內ニ於テ爲ス養殖業（第二種）

三　前二號ノ外一定ノ區域內ニ於テ爲ス養殖業（第三種）

第四條　特別漁業ノ種類左ノ如シ

一　一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業（第一種）

二　一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業（第二種）

三　一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漉網漁業（第三種）

四　一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業（第四種）

五　一定ノ網場ヲ有スル曳待網漁業（第五種）

六　一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業（第六種）

七　一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業（第七種）

八　一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鰒漁業（第八種）

九　一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業（第九種）

第五條　前三條ニ該當スル漁業ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條　本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ謂ヒ區劃漁業ニ在リテハ區劃スル區域ヲ謂ヒ、專用漁業ニ在リテハ專用スル區域ヲ謂ヒ、特別漁業中第一種ノ漁業ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域ヲ謂ヒ、第二種ノ漁業ニ在リテハ追込場ノ區域ヲ謂ヒ、第三種及第四種ノ漁業ニ在リテハ網ノ使用區域ヲ謂ヒ、第五種及第六種ノ漁業ニ在リテハ網場ノ使用區域ヲ謂ヒ、第七種ノ漁業ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域ヲ謂ヒ、第八種ノ漁業ニ在リテハ漬場ノ區域ヲ謂ヒ、第九種ノ漁業ニ在リテハ築磯ノ區域ヲ謂フ

第七條　同一漁場ニ於テハ同一時期ニ於テ同一名稱ノ漁業ヲ免許セス但シ第三種乃至第六種ノ特別漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　前條ノ外水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムル漁業又ハ免許ヲ受ケタル漁業ト相容レスト認ムル漁業ハ之ヲ免許セス

第九條　市、町、村、町村組合及市町村內ノ獨立シタル區ハ從來ノ慣行アルニ非サレハ漁業免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　同一漁業ニ於テ二以上ノ漁業免許アリタルトキハ關係漁業權者ハ命令書ノ定ムル所ニ

依リ交互ニ其ノ權利ヲ制限セラルルモノトス

第十一條　漁業權者ハ其ノ漁場內ニ於ケル他人ノ漁業直接ニ自己ノ漁業ニ妨害アルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　他人ノ專用漁場ニ入漁スルノ權利ヲ有スル者ハ漁業權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行又ハ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　前條ノ規定ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十四條　漁業ニ關スル出願、申請及屆出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一　專用漁業ニ關スルトキ

二　二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屆スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ

三　漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テハ主務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第十五條　農商務大臣ニ出願、申請又ハ屆出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第十六條　漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第十七條　漁業ニ關スル出願、申請及屆出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

書面ハ專用漁業ニ在リテハ漁場每ニ其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場每ニ一通ヲ作リ差出人ノ住所及差出人ノ年月日ヲ記載シ差出人之ニ記名捺印スヘシ